

兵庫県三木市所在

# 大年山遺跡・大年山古墳

—山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXXIX—

平成14年3月  
(2002)

兵庫県教育委員会

兵庫県三木市所在

おお とし やま い せき おお とし やま こ ふん  
大年山遺跡・大年山古墳

— 山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XXXIX —

平成14年3月  
(2002)

兵庫県教育委員会



大年山遺跡・大年山古墳遠景(南東から)



大年山遺跡・大年山古墳遠景(東から)

## 例　　言

1. 本書は、兵庫県三木市別所町和田字大年山に所在する大年山遺跡、大年山古墳の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査ならびに整理作業は、日本道路公団大阪建設局の依頼を受けて兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が実施した。
3. 発掘調査は合計3年度にわたって実施した。それぞれの実施年度および遺跡調査番号は下記の通りである。

確認調査	平成6年度	遺跡調査番号	(940279)
確認調査	平成7年度	遺跡調査番号	(950144)
全面調査	平成7年度	遺跡調査番号	(950296) (大年山遺跡) (950297) (大年山古墳)
4. 整理作業は平成11・12・13年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所に於いて実施した。
5. 本書において使用した方位は、国土座標V系を基準にし、水準は東京湾平均海水準(T・P)を使用した。また、方位は座標北を指す。
6. 本書に掲載した遺跡分布図ならびに現況位置図には、国土地理院発行5万分の1「高砂」図帳を使用した。
7. 本書の執筆分担は目次に示した通りである。
8. 遺物実測図については、断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器、断面を白ヌキのものは土師器をそれぞれ示している。
9. 土層などの色調は小山目正忠・竹原秀雄著『新版 標準土色帖』1992年版を使用した。
10. 本報告にかかる出土遺物・写真などの関係資料は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所および、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所魚住分館にて保管している。
11. 本書の編集は柏原美音の補助を得て岡本が実施した。
12. 現地調査、整理作業の際には、下記の機関にご教示をいただいた。記して感謝いたします。

三市教育委員会

## 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過.....	(岡本).....1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 確認調査の経過.....	1
第3節 全面調査の経過.....	2
第4節 発掘調査及び整理の体制.....	2
第2章 遺跡をとりまく環境.....	(仁尾).....7
第1節 地理的環境.....	7
第2節 歴史的環境.....	7
第3章 大年山遺跡の調査.....	(岡本).....13
第1節 遺跡の概要.....	13
第2節 遺構.....	13
1. 据立柱建物.....	13
2. 土坑.....	14
3. その他の遺構.....	16
第3節 遺物.....	17
1. 全体の概要.....	17
2. 須恵器.....	17
3. 土師器.....	19
4. その他の遺物.....	19
第4章 大年山古墳の調査.....	(岡本).....20
第1節 概要.....	20
第2節 遺構.....	20
1. 立地.....	20
2. 墳丘.....	20
3. 埋葬施設.....	20
4. 周溝.....	21
第3節 遺物.....	21
1. 須恵器.....	21
2. 土師器.....	21
第5章 まとめ.....	(岡本).....22
1. 古墳時代の遺構.....	22
2. 大年山古墳.....	22
3. 奈良時代の遺構.....	23
4. 結語.....	23

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置（兵庫県市町村位置図・50,000の1図）	v
第2図 D-3区表面採取石製品	4
第3図 大年山遺跡・大年山古墳調査区設定図	5
第4図 調査区地区割り図	6
第5図 周辺の遺跡分布図	10

## 本文写真目次

写真1 調査風景	4
----------	---

## 表目次

第1表 大年山遺跡・大年山古墳の周辺の遺跡	11
第2表 大年山遺跡・大年山古墳土器観察表	24

## 図版目次

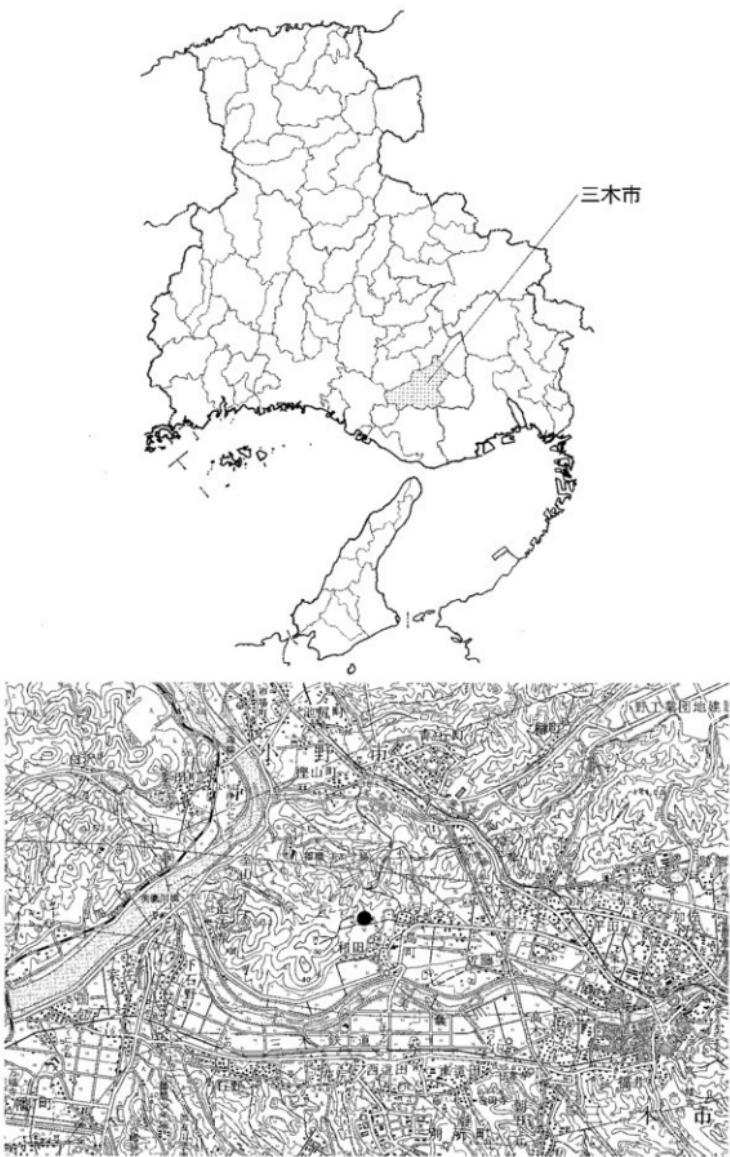
図版1 大年山遺跡全体図
図版2 大年山遺跡遺構配図
図版3 大年山遺跡遺構図（1）主に古墳時代
図版4 大年山遺跡遺構図（2）主に奈良時代～中世
図版5 土坑（1）
図版6 土坑（2）
図版7 土坑その他
図版8 挖立柱建物SB01
図版9 挖立柱建物SB02
図版10 挖立柱建物SB03
図版11 溝（1）
図版12 溝（2）
図版13 土坑・掘立柱建物・溝出土土器
図版14 包含層出土土器
図版15 金属製品・石製品

- 図版16 大年山古墳調査前地形測量図  
 図版17 大年山古墳地形測量図  
 図版18 大年山古墳遺構配置図  
 図版19 大年山古墳主体部1・2・3平面断面図  
 図版20 古墳出土遺物

## 写真図版目次

- 卷頭図版 大年山遺跡・大年山古墳遠景（南東から）（上）  
 大年山遺跡・大年山古墳遠景（東から）（下）  
 写真図版 1 大年山遺跡・大年山古墳遠景（北東から）（上）  
 大年山遺跡・大年山古墳遠景（南東から）（下）  
 写真図版 2 大年山遺跡全景（垂直写真）  
 写真図版 3 大年山遺跡調査前全景（南西から）  
 大年山遺跡調査前全景（北東から）  
 大年山遺跡調査前全景（西から）  
 写真図版 4 SB03（東から）  
 握立柱建物群（西から）  
 握立柱建物群（西から）  
 写真図版 5 SX01検出状況（東から）  
 SX01金属製品出土状況（東から）  
 SX01完掘状況（南から）  
 写真図版 6 SX02検出状況（東から）  
 SX02土層断面（南東から）  
 SX02完掘状況（東から）  
 写真図版 7 SK03検出状況（南東から）  
 SK03土層断面（東から）  
 SK03遺物出土状況（南東から）  
 写真図版 8 SX03（南東から）  
 SX04（南東から）  
 段状遺構（南西から）  
 写真図版 9 出土遺物  
 写真図版10 出土遺物  
 写真図版11 出土遺物  
 写真図版12 出土遺物（石製品）  
 写真図版13 出土遺物（金属製品）

- 写真図版14 大年山古墳検出状況（南東から）  
大年山古墳主体部検出状況（北東から）
- 写真図版15 主体部検出状況（南東から）  
主体部土層断面（南から）  
主体部完掘状況（南東から）
- 写真図版16 主体部完掘状況（南東から）  
主体部完掘状況（南西から）
- 写真図版17 北側周溝内土器（北西から）  
北側周溝内土器（南東から）  
北側周溝内土器（東から）
- 写真図版18 墳丘断ち割り埴（南東から）  
墳丘断ち割り埴（南西から）
- 写真図版19 墳丘断ち割り埴（北東から）  
墳丘断ち割り埴（北東から）  
墳丘断ち割り埴（北東から）
- 写真図版20 出土遺物



第1図 遺跡の位置（兵庫県市町村位置図・50,000の1図）

## 第1章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

山陽自動車道（正式名称：高速自動車国道山陽自動車道吹田山口線）は、大阪府吹田市を起点として山口県山口市に至る総延長距離約434kmに及ぶ高速道路である。

兵庫県内の路線は、西は赤穂市より県内の中南部を横断して神戸市北区有野町に於いて中国縦貫自動車道と合流する地点まで約90kmに及ぶ。このうち神戸ジャンクション（神戸市北区）～三木・小野インターチェンジ（三木市）間は、第10次施工区間として、昭和57年に整備計画が発表された。

事業地内の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、日本道路公団と兵庫県教育委員会で協議を重ね、昭和61年4月と昭和62年3月の2回にわたり分布調査を実施した。この結果、事業地内の52箇所について確認調査の必要が認められた。この結果を受けて兵庫県教育委員会では平成元年より確認調査を実施した。

### 第2節 確認調査の経過

山陽自動車道（神戸～三木）の確認調査は、平成元年度～2年度にかけて実施したが、大年山遺跡・大年山古墳については、平成2年度に神戸～三木間36地点の調査の一環として実施した。この調査の結果、No1地点とNo2地点の2箇所は南向きの緩斜面であり、遺跡が存在する可能性が高いため、遺構の有無と遺跡の範囲を確定するために確認調査を実施した。調査は平成6年度、平成7年度に年ノ神遺跡、勝手野古墳群などの全面調査と平行して行われた。（挿図3）

#### 第1次確認調査（平成6年度） 遺跡調査番号940279

調査担当者 調査第2班 井守 徳男 種定 淳介 平田 博幸 長濱 誠司

調査期間 平成6年12月8日～平成7年1月13日

調査面積 195m<sup>2</sup>

調査結果 トレンチ2より土坑を検出した。それ以外のトレンチからも古墳時代から奈良時代の土器が多量出土している。

#### 第2次確認調査（平成7年度） 遺跡調査番号950144

調査担当者 調査第2班 井守 徳男 久保 弘幸 井本 有二 松岡 千寿

調査期間 平成7年6月1日～8月2日

調査面積 75m<sup>2</sup>

調査結果 トレンチ1より古墳の周溝を検出した他、遺物を多数検出した。

### 第3節 全面調査の経過

前記の確認調査の結果を受けて、平成7年10月4日付大建総管第389号の依頼により全面調査を実施した。

発掘調査に当たっては、兵庫県教育委員会が大日本土木株式会社と、空中写真撮影はアジア航測株式会社と委託契約を締結し実施した。

#### 発掘調査事業参加者

調査担当者　主　　査　　森内　秀造

技術職員　仁尾　一人

技術職員　岡本　一秀

現場補助員　高島恵子・牛谷　好伸・越智みや子・高谷　百世

室内作業員　菊島　昌子・佐藤　朋子・富永　浩子・永井　弘子・内藤須美子

藤田　由美・林　美代子

発掘請負業者　大日本土木株式会社

### 第4節 発掘調査及び整理の体制

出土遺物の整理作業は、水洗いとネーミング作業の一部については、全面調査時に現場事務所において実施したが、本格的な整理作業は平成11年度より埋蔵文化財調査事務所において実施した。

#### 整理作業参加者

平成11年度　接合・補強・復元を実施

整理担当職員　非常勤嘱託職員

主　　査　　森内　秀造　企画技術員　吉田　優子　喜多山好子

主　　査　　菱田　淳子　図化技術員　石野　照代　早川亜紀子　藏　幾子

技術職員　仁尾　一人　鳥村　順子　大仁　克子　小寺恵美子

技術職員　岡本　一秀　岡井とし子

図化補助技術員　蓬萊　洋子

平成12年度　実測・復元・金属製品保存処理・写真撮影を実施

整理担当職員　非常勤嘱託職員

主　　査　　森内　秀造　主任技術員　柏原　美音

主　　査　　菱田　淳子　図化技術員　津田　友子

技術職員　仁尾　一人　日々雇用職員　垣本　明美

技術職員　岡本　一秀

#### 金属製品保存処理

主　　査	加古千恵子	企画技術員	和田寿佐子
技術職員	岡本　一秀	固化技術員	藤川　紀子・三好　綾子
		日々雇用職員	野上　祐子

平成13年度　造構図補正・トレース・レイアウト～刊行までの作業を実施

整理担当職員	非常勤嘱託職員		
主　　査	森内　秀造	主任技術員	柏原　美音
主　　査	菱田　淳子	固化技術員	小野　潤子・津田　友子
技術職員	仁尾　一人		
技術職員	岡本　一秀		

#### 調査日誌抄

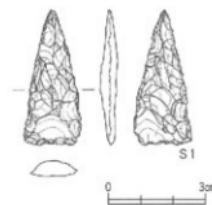
全面調査　平成7年11月15日～平成8年2月14日

- 11月15日　　調査開始。大年山古墳の調査区の機械掘削開始。
- 11月16日　　大年山古墳の調査区の精査を行う。方形に巡る周溝を検出する。古墳は当初調査区外に出ていると想定されていたが、調査区内に収まることがわかる。
- 11月24日　　大年山古墳の調査前の写真撮影を行う。大年山遺跡の機械掘削開始。(A-1～A-4区) 斜面の上から下へと表土の除去を行う。
- 11月27日～29日　　大年山古墳の周溝の精査を行う。北側周溝の西側より須恵器壺片など出土。古墳の南側よりSX01を検出。大年山遺跡B区機械掘削。
- 12月4日　　古墳の検出状況の写真撮影。
- 12月5日　　古墳の墳丘の測量を実施。大年山遺跡A～B地区人力掘削。
- 12月7日　　古墳の墳丘の精査を行う。
- 12月11日　　大年山古墳の主体部1の掘方検出状況の写真撮影を行う。複数の主体部が切り合っているため、さらに精査を行う。主体部埋土は黄褐色の砂質土であるため、棺の痕跡の検出は難しい。
- 12月13日　　古墳の主体部は3基確認できた。トレチを入れ棺の痕跡の検出作業を行う。トレチ断面を検討した結果、わずかな土質の差より木棺の痕跡を検出し、平面的に掘り下げる。
- 12月19日　　大年山古墳北側周溝内の土器の実測を行う。
- 12月21日　　SX01の写真撮影を行う。
- 12月26日～1月7日　　正月休み
- 1月8日　　調査再開。主体部の珪の実測と写真撮影を行う。
- 1月9日　　SX01の掘り下げ。砾の間より須恵器片数点出土。A～B地区精査。

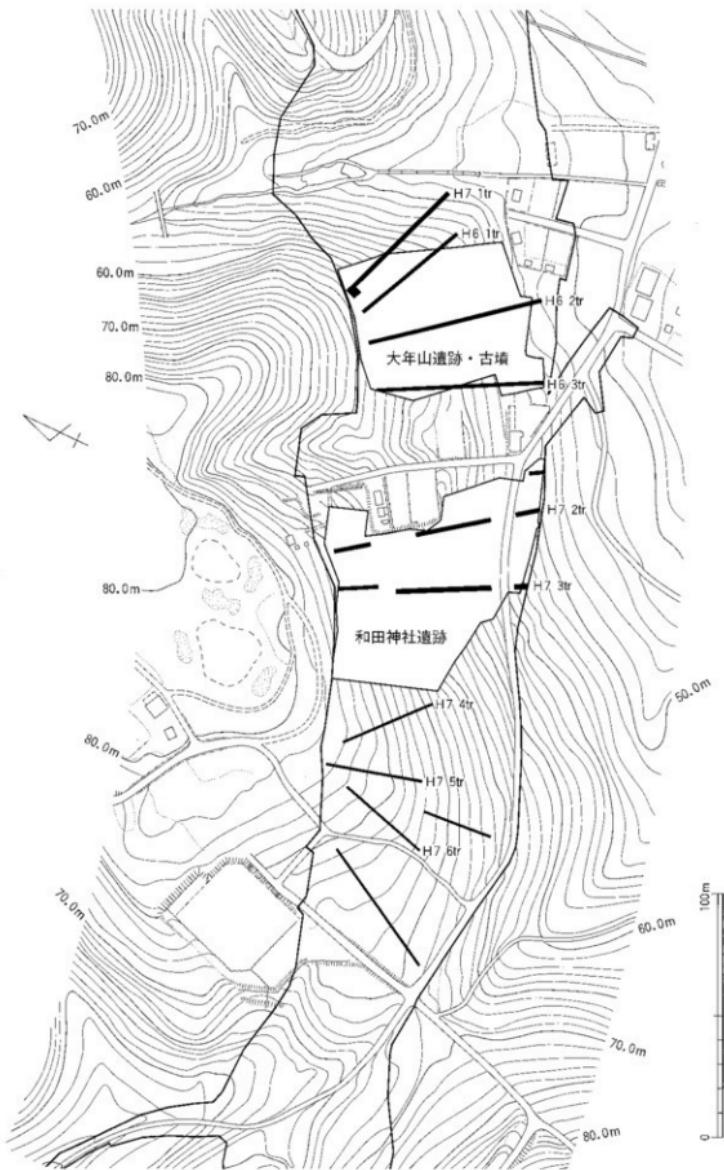
- 1月10日 C区の精査を行う。ほとんど遺構は確認できず。
- 1月12日 D区の精査を行う。ピットが多数検出された。A、B地区平面実測開始。
- 1月16日 SD01を検出する。D-1区のピット周辺の斜面側に方形のプランが確認できたので住居址の可能性があると判断し畦を設定する。
- 1月24日 D-3区の精査中に廃土より石器を採取。
- 1月26日 D-2区で住居状の遺構を検出。D区平面実測。
- 1月29日 大年山遺跡の地形測量を行う。
- 1月30日 D区の精査を行う。ピットの掘り下げを行う。
- 2月5日 空中写真撮影を行う。D地区全景写真の撮影を行う。大年山古墳の全景写真の撮影を行う。
- 2月6日 1号墳の墳丘の断ち割りを行う。
- 2月8日 D区の遺構の平面実測とレベル入れ、ピットの断面実測と写真撮影を行う。
- 2月9日 D区の遺構の完掘後の全景写真の撮影を行う。
- 2月13日 墳丘の断面の実測と写真撮影を行う。
- 2月14日 墳丘完掘後の写真撮影を行う。調査を終了する。



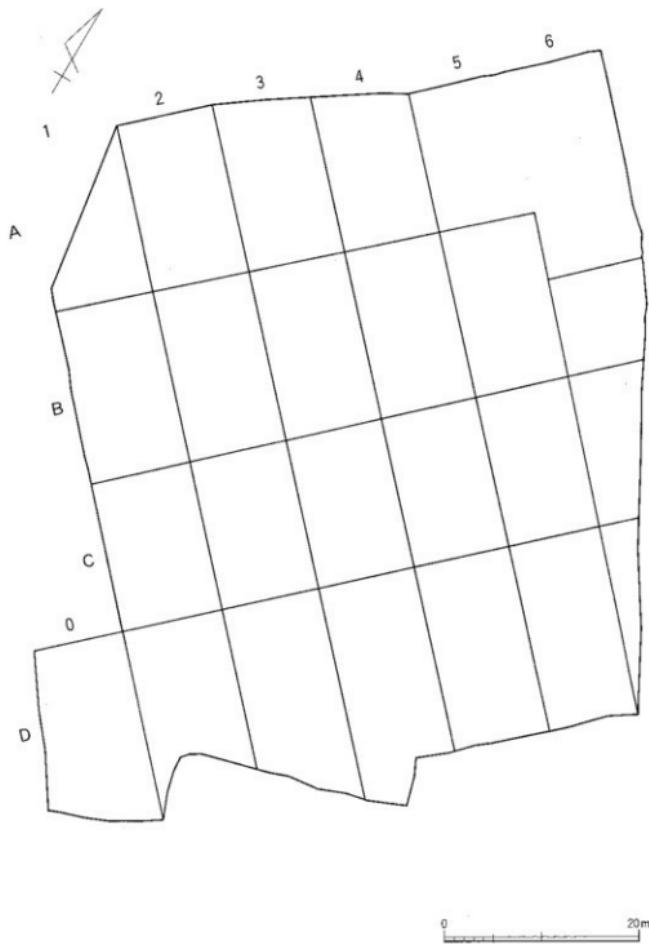
写真1 調査風景



第2図 D-3区表面採取石製品



第3図 大年山遺跡・大年山古墳調査区設定図



第4図 調査区地区割り図

## 第2章 遺跡をとりまく環境

### 第1節 地理的環境

大年山遺跡および大年山古墳群は、兵庫県の南東部、三木市に所在している。三木市は、東西約15km、南北約13km、面積およそ120km<sup>2</sup>の範囲におよんでおり、北東は美義郡吉川町、北は加東郡東条町および小野市、西は加古川市および加古郡稻美町、その他の部分は神戸市とそれぞれ接している。

市内北部を南西流する美義川は、市街地東部で志染川などの小河川が合流し、市域西端の加古川市と小野市との市境で播磨地域第一の河川である加古川に合流する。市域全体は、標高200mに満たないながらかな地形が広がっており、市域の東半部は、美義川およびその支流によって細分された小野、吉川、細川、志染などの丘陵が分布している。また、市域の南西部は、大阪層群によって形成された標高50~100mの明美丘陵から成り、灌漑用水確保のための溜池が数多く点在し、酒米山田錦の産地として知られている。

市の中心部は、15世紀末に築城された三木城とその城下町周辺に広がる市域唯一のまとまった平野部に形成されている。別柴秀吉による城攻めで有名な三木城は、郊路と有馬を東西にはば直線に結ぶ街道の中間地点にあたり、これを見下ろす美義川左岸の河岸段丘上に立地している。三木城跡の周囲は、主要地方道神戸・三木線や同二木・三田線、神戸電鉄粟生線、三木鉄道などの道路・鉄道網が縱横に通じ、中世から現在に継ぐ交通の要衝である。

今回の調査の契機となった山陽自動車道は、三木市をほぼ東西に貫いているが、自動車道建設以前にも、市域南部、志染町緑ヶ丘周辺での大規模な宅地開発や市域東部での数多くのゴルフ場建設によって、市域全体の風景は著しい変貌を遂げている。このため、のどかな田園都市は阪神間のベッドタウンあるいはレジャー都市へと新しい環境の変化が進んでいる。

大年山遺跡は、市の中心部から西へ約2km、三木市西端、別所町の美義川右岸に形成された集落背後の丘陵裾に立地している。遺跡は標高およそ50mを測り、丘陵上に立地する大年山古墳（3号墳）とは約10mの比高差がある。古墳から南方向を見下ろせば、美義川およびその流域が視界に広がり、眺望は良好である。

### 第2節 歴史的環境

山陽自動車道建設に伴って三木市内では、数多くの遺跡の調査が実施され、これまでに路線内全域の概要や調査された遺跡ごとに関連する遺構や時期などの歴史的環境が報告されている。隣接する和田神社遺跡や近接する年ノ神遺跡・年ノ神古墳群においても、それぞれ各時代の記載が行われていることから重複を避け、本書では大年山古墳群を中心として周辺に構成された5つの古墳群（大才谷・草荷野・妙界寺・天王山・愛宕山）の概要について述べてみたい。また、大年山遺跡が営まれた8世紀を中心とした時期（奈良時代）の遺跡周辺の環境についてもふれておきたい。

### 大年山古墳群について

大年山古墳群および後述する大才谷・草荷野古墳群が点在する丘陵全域には、現在、300基以上の古墳が確認されている。この多数の古墳が点在する丘陵内に、現在の三木市と小野市との市境が存在しており、各々市域で古墳群の名称が異なっている。大きく分類すれば、美嚢川を望む地点に立地する古墳は三木市に、小野市側を望む地点に立地する古墳は小野市にそれぞれ所在すると考えられるが、例外もあり、また、明らかに同一丘陵上に立地する古墳群が現在の市境によって分割されている例もある。<sup>(2)</sup>このため、今後、古墳群の名称など市域を越えて検討することが望まれる。

一連の丘陵は美嚢川の下流域、現在的主要地方道三木・山崎線と神戸電鉄粟生線が並行して走る大村坂越付近に立地する大村坂古墳群を東端とし、美嚢川が加古川に合流する地点を見下ろす丘陵に立地する正法寺古墳群を西端とする東西約1.5km、南北約0.5kmの範囲に広がっている。大年山古墳群は、それらのほぼ中間地点に位置しており、南向きの丘陵の中腹に4基が確認されている。大年山古墳群や大才谷・草荷野古墳群など丘陵上に分布する古墳の埋葬主体は、おおむね木棺直葬と考えられている。今回調査を実施した大年山古墳は大年山3号墳、SX01は大年山4号墳と呼称されている。詳細は第3章によられたい。また、今回の調査対象範囲外の1・2号墳は、大年山古墳以北の標高およそ70mの地点に立地している。1号墳は東西5m、南北5.7m、高さ0.3mを測る方墳で、2号墳は直径6.5m、高さ0.5mを測る円墳、ともに埋葬主体は木棺直葬と考えられる。

### 大才谷・草荷野古墳群について

大才谷古墳群は、前述したように三木市に所在する古墳群の名称で、現在20基が確認されている。一方、小野市に所在する古墳は、櫻山古墳群と呼称され、現在151基が確認されており、200基近くの古墳が分布している。これらの古墳は、小野市側に占める割り合いが大きく、10前後の支群に分かれている。それぞれの支群には、中核となる大型古墳が存在し、周囲を小型古墳が点在する形態で一群が構成されている。

大才谷1・2号墳は、小野市側の櫻山117~130号墳と同一支群と考えられ、16基から成る一支群を構成している。また、大才谷3~20号墳は、一部消滅している古墳もみられるが、櫻山136~146・149~151号墳（一部、三木市所在の古墳を含む）と併せ32基（うち、5基消滅）が同一の一群を構成しているものと考えられる。これらの古墳は、調査がほとんど実施されていないが、木棺直葬を埋葬主体とし、古墳時代後期に位置付けられている。

草荷野古墳群は、大年山古墳群の西側の丘陵上に4基確認されている。古墳は現在、ゴルフ場敷地内に保存されているが、ゴルフ場建設以前には12基（うち、三木市側には7基）が存在していたようである。<sup>(3)</sup>残存する群内最大の4号墳は、東西13.8m、南北14.2m、高さ1mを測る円墳である。他の3基は、直径5m前後、高さ約0.5mを測る円墳で、いずれも古墳時代後期に位置付けされている。

### 妙界寺・天王山・愛宕山古墳群について

櫻山を含む大年山・大才谷・草荷野古墳群など丘陵上に分布する古墳の埋葬施設が木棺直葬であるのに対し、妙界寺・天王山・愛宕山古墳群の埋葬施設はすべて横穴式石室である。3つの古墳群は、大年山古墳群などが立地する一連の丘陵からなれば独立した山塊に立地している。

天王山古墳群は、天王山山頂に所在する小和田神社周囲の標高およそ100mの地点に5基が点在して確

認されている。5基の古墳はいずれも直径15m前後、高さ1.5m前後の円墳で、古墳時代後期のものと考えられている。

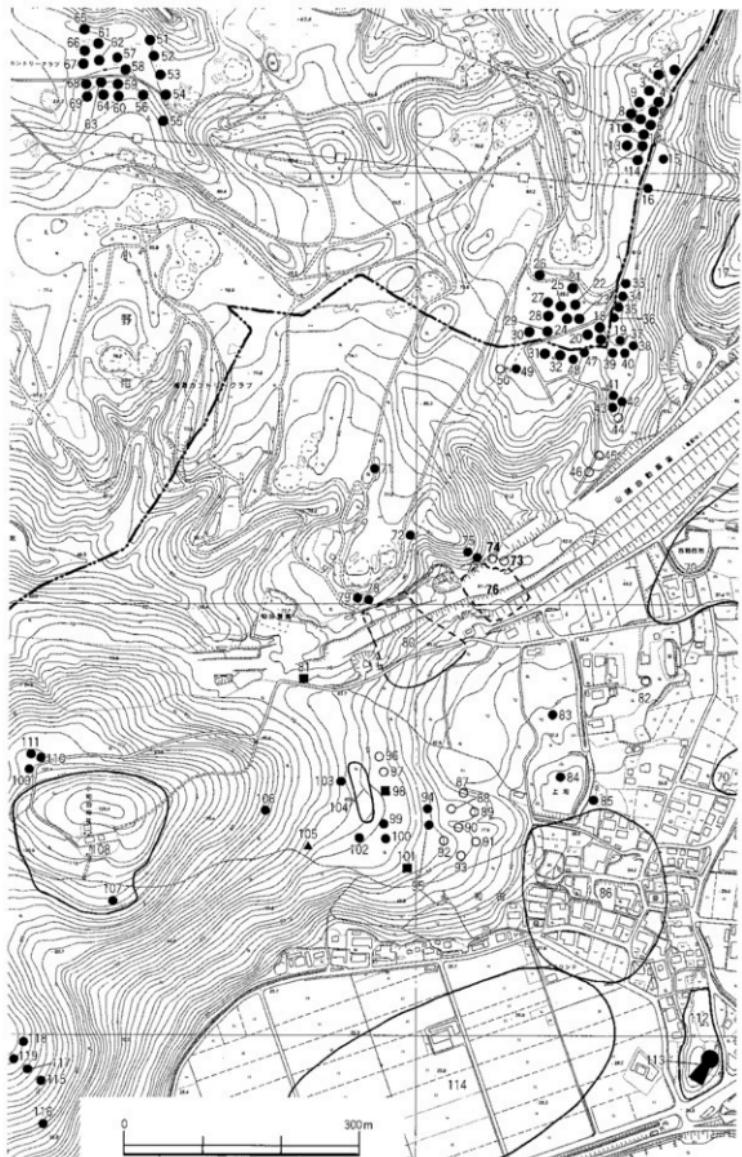
妙界寺古墳群は、天王山東麓の標高およそ40mから70mの緩斜面地に19基が確認されているが、現在消滅しているものが多くみられる。古墳は直径10mを越え、高さ約1.5mを測るもの（1・18・19号墳）と直径8m前後、高さ約0.8mを測るもの、直径5m前後、高さ約0.3mを測るもの3種に分類される。また、妙界寺古墳群では、天王山古墳群や後述する愛宕山古墳群にはみられない、葺石が墳丘に確認されている。

愛宕山<sup>1</sup>帯に点在する愛宕山古墳群は、現在13基が確認されている。山頂およびその北にそれぞれ2基、標高およそ80mの南西斜面に2基、標高およそ100mから80mの南東斜面に7基の古墳が点在している。山頂に立地する3号墳は、直径23m、高さ2mを測り群内最大の規模をもつ。この他、直径20m前後の古墳が2基（2・12号墳）存在しており、直径10m前後の墳丘が多い周辺の横穴式石室墳の中でも大型に分類される。また、南西斜面には石切場と考えられる遺構が確認されている。これは、これまで9号墳とされていたが、周辺の古墳の石材を切り出した跡と見られるものである。

この他、美濃川が加古川に合流する地点までにも東からフルムショ南西尾根・正法寺東尾根・正法寺の各古墳群が16～18基ごとに分布しており、大年山古墳群を中心とした丘陵全域に古墳が密集している。

#### 奈良時代の遺跡周辺の環境

三木市内における奈良時代の集落跡は、古墳時代の遺跡と重なりながら増加し、現在、確認あるいは調査された遺跡は13遺跡、土器などが採取された散布地は38ヶ所を数えている。「播磨国風土記」には、美濃郡に志深（志染）・高野・牧野（平野）・吉川の四里の名がみられる。多くの古墳が築造され、一大勢力が存在したと考えられる美濃川下流域およびその流域は、このうちの牧野里にあたると考えられており、大年山遺跡や久留美の田井野遺跡などでこの時期の遺構が発見されている。<sup>(4)</sup>また、加古川中・下流域においては、律令期の寺院が次々と建立されているが、三木市域ではこれまでにこの時期の寺院跡は確認されていないが、大年山遺跡の西、天王山古墳群が分布する山頂に位置する小和田神社の裏山（小和田神社遺跡）から埴仏と瓦塔が出土しており、白鳳期の寺院跡が存在していたと考えられている。この他、久留美の柳谷、跡部の湯谷・西ノ谷では、山陽自動車道関係の調査として、この時期の須恵器を生産した窯跡の調査が実施されている。<sup>(5)</sup>



第5図 周辺の遺跡分布図

第2表 大年山遺跡・大年山古墳の両辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	種類	番号	遺跡名	時代	種類
1	櫻山117号墳	古墳時代後期	古墳	61	桜山61号墳	古墳時代後期	古墳
2	櫻山118号墳	古墳時代後期	古墳	62	桜山62号墳	古墳時代後期	古墳
3	櫻山119号墳	古墳時代後期	古墳	63	桜山63号墳	古墳時代後期	古墳
4	櫻山120号墳	古墳時代後期	古墳	64	桜山64号墳	古墳時代後期	古墳
5	櫻山121号墳	古墳時代後期	古墳	65	桜山65号墳	古墳時代後期	古墳
6	櫻山122号墳	古墳時代後期	古墳	66	桜山66号墳	古墳時代後期	古墳
7	櫻山123号墳	古墳時代後期	古墳	67	桜山67号墳	古墳時代後期	古墳
8	櫻山124号墳	古墳時代後期	古墳	68	桜山68号墳	古墳時代後期	古墳
9	櫻山125号墳	古墳時代後期	古墳	69	桜山69号墳	古墳時代後期	古墳
10	櫻山126号墳	古墳時代後期	古墳	70	鳥居遺跡	弥生中期～平安時代	集落跡
11	櫻山127号墳	古墳時代後期	古墳	71	京南野4号墳	古墳時代後期	古墳
12	櫻山128号墳	古墳時代後期	古墳	72	京南野3号墳	古墳時代後期	古墳
13	櫻山129号墳	古墳時代後期	古墳	73	大年山4号墳(SX01)	古墳時代後期	古墳
14	櫻山130号墳	古墳時代後期	古墳	74	大年山3号墳(大年山古墳)	古墳時代後期	古墳
15	大才谷1号墳	古墳時代後期	古墳	75	大年山2号墳	古墳時代後期	古墳
16	大才谷2号墳	古墳時代後期	古墳	76	大年山遺跡	秦漢時代	集落跡
17	貝谷遺跡 第2地点	弥生時代中期	墓・集落跡	77	大年山1号墳	古墳時代後期	古墳
18	櫻山150号墳	古墳時代後期	古墳	78	茅草野2号墳	古墳時代後期	古墳
19	櫻山149号墳	古墳時代後期	古墳	79	茅草野1号墳	古墳時代後期	古墳
20	櫻山148号墳	古墳時代後期	古墳	80	和田山神社遺跡	弥生後期～古墳前期・奈良時代	集落跡
21	櫻山136号墳	古墳時代後期	古墳	81	妙界寺2号墳	中世	墓
22	櫻山137号墳	古墳時代後期	古墳	82	妙界寺1号墳	古墳時代後期	古墳
23	櫻山138号墳	古墳時代後期	古墳	83	妙界寺4号墳	古墳時代後期	古墳
24	櫻山139号墳	古墳時代後期	古墳	84	妙界寺3号墳	古墳時代後期	古墳
25	櫻山140号墳	古墳時代後期	古墳	85	妙界寺2号墳	古墳時代後期	古墳
26	櫻山144号墳	古墳時代後期	古墳	86	和田山中川散布地	平安時代末期	散布地
27	櫻山141号墳	古墳時代後期	古墳	87	妙界寺1号墳	古墳時代後期	古墳
28	櫻山142号墳	古墳時代後期	古墳	88	妙界寺11号墳	古墳時代後期	古墳
29	櫻山143号墳	古墳時代後期	古墳	89	妙界寺10号墳	古墳時代後期	古墳
30	櫻山145号墳	古墳時代後期	古墳	90	妙界寺8号墳	古墳時代後期	古墳
31	櫻山146号墳	古墳時代後期	古墳	91	妙界寺6号墳	古墳時代後期	古墳
32	櫻山151号墳	古墳時代後期	古墳	92	妙界寺7号墳	古墳時代後期	古墳
33	大才谷3号墳	古墳時代後期	古墳	93	妙界寺5号墳	古墳時代後期	古墳
34	大才谷4号墳	古墳時代後期	古墳	94	妙界寺12号墳	古墳時代後期	古墳
35	大才谷5号墳	古墳時代後期	古墳	95	妙界寺9号墳	古墳時代後期	古墳
36	人才谷6号墳	古墳時代後期	古墳	96	妙界寺17号墳	古墳時代後期	古墳
37	大才谷7号墳	古墳時代後期	古墳	97	妙界寺16号墳	古墳時代後期	古墳
38	大才谷8号墳	古墳時代後期	古墳	98	妙界寺1号墓	中世	墓
39	大才谷9号墳	古墳時代後期	古墳	99	妙界寺15号墳	古墳時代後期	古墳
40	大才谷10号墳	古墳時代後期	古墳	100	妙界寺14号墳	古墳時代後期	古墳
41	大才谷11号墳	古墳時代後期	古墳	101	妙界寺3号墓	中世	墓
42	大才谷12号墳	古墳時代後期	古墳	102	妙界寺18号墳	古墳時代後期	古墳
43	大才谷13号墳	古墳時代後期	古墳	103	妙界寺19号墳	古墳時代後期	古墳
44	大才谷14号墳	古墳時代後期	古墳	104	妙界寺遺跡	古墳時代～奈良時代	散布地
45	大才谷15号墳	古墳時代後期	古墳	105	天王山祭祀遺跡	平安時代中期～鎌倉時代初期	祭祀跡
46	大才谷16号墳	古墳時代後期	古墳	106	天王山1号墳	古墳時代後期	古墳
47	大才谷17号墳	古墳時代後期	古墳	107	天王山2号墳	古墳時代後期	古墳
48	人才谷18号墳	古墳時代後期	古墳	108	小和田神社遺跡	白鳳時代～奈良時代	社寺・祭祀跡
49	大才谷19号墳	古墳時代後期	古墳	109	天王山3号墳	古墳時代後期	古墳
50	大才谷20号墳	古墳時代後期	古墳	110	天王山4号墳	古墳時代後期	古墳
51	櫻山72号墳	古墳時代後期	古墳	111	天王山5号墳	古墳時代後期	古墳
52	櫻山73号墳	古墳時代後期	古墳	112	和田白長人神社敷地	旧石器時代～平安時代	散布地
53	櫻山74号墳	古墳時代後期	古墳	113	白長古墳	古墳時代	古墳
54	櫻山75号墳	古墳時代後期	古墳	114	和田校本散布地	古墳時代後期～奈良時代	散布地
55	櫻山71号墳	古墳時代後期	古墳	115	愛宕山10号墳	古墳時代後期	古墳
56	櫻山59号墳	古墳時代後期	古墳	116	愛宕山11号墳	古墳時代後期	古墳
57	櫻山63号墳	古墳時代後期	古墳	117	愛宕山7号墳	古墳時代後期	古墳
58	櫻山64号墳	古墳時代後期	古墳	118	愛宕山5号墳	古墳時代後期	古墳
59	櫻山65号墳	古墳時代後期	古墳	119	愛宕山6号墳	古墳時代後期	古墳
60	櫻山67号墳	古墳時代後期	古墳				

## 注

- (1) 「西ヶ原遺跡」1996、『和田神社遺跡』2002、『牛ノ神遺跡』2002、他 兵庫県教育委員会
- (2) 三本市側では大才谷古墳群、小野市側では櫻山古墳群と呼称される古墳群は、明らかに同一丘陵上に立地しており、現在の市境によって分割されている。この他、6基から構成される貝谷古墳群と呼称される三本市側の古墳群も櫻山28~53号墳と隣接し、同一支群と考えられる。
- (3) 「(前略)草荷野群集墳は12基（そのうち7基は三木市）比較的墳高も高く第6号墳に後道入口の石が露出していることから何れも横穴式石室であろうと思われる。(後略)」と記載されている。また、草荷野・大才谷群集墳に隣接して新田山古墳2基（何れも堅穴式船式棺）についての記載もみられるが、最近の分布測定では報告されていない。さらに、草荷野古墳群の基数および埋葬主体についても、現在では4基、埋葬主体は不明とされている。  
西村道夫「三木市の古墳」 三木市文化財保護委員会 1994  
「三木市遺跡分布地図」三木市遺跡詳細分布調査報告書 三木市教育委員会 2001
- (4) 「田井野遺跡」 兵庫県教育委員会 1996
- (5) 「久留美・跡部窪跡群」 兵庫県教育委員会 1999

## 上記以外の参考文献

- 『三木市史』 三木市役所 1970  
『小野市史』第一巻 本編Ⅰ 小野市 2001

\* 周辺の遺跡分布図は『三木市遺跡分布地図』三木市遺跡詳細分布調査報告書 三木市教育委員会 2001を基に作成した。

## 第3章 大年山遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

大年山遺跡は、小野台地の南端の南東部に突き出た尾根の先端部に位置しており、調査区の約8割が南東部へと下がる斜面である。残りの2割が斜面の下の平坦部である。遺構の分布状況は、大きく分けると斜面上部に土坑が散在し、斜面と平坦部の境には傾斜変換点を区画する溝、平坦部ではピットや土坑などが検出された。ピットからは掘立柱建物3棟を復元することができた。

### 第2節 遺構

#### 1. 掘立柱建物

大年山遺跡で確認できた掘立柱建物は3棟である。いずれも調査区南東端の平坦部より検出されている。調査当時に確認できたのは、SB01だけで、その他は調査後に図面を検討している段階で確認した。従って、検出漏れの柱穴があったり、建物の適切な検出状況の写真記録を取ることができていない。

##### SB01(図版8)

- 検出状況 調査区の南端に位置し調査区外に延びる。
- 形状・規模 N-69°-Eに主軸をとると推定され、梁行1間以上、桁行2間以上からなる掘立柱建物である。柱間の距離は、梁・桁行ともに1.5~1.6mで、ほぼ等間隔である。
- 柱穴 P19、21、26、30、31から成る。掘方の平面形は円形である。径は50~30cmを測る。検出されたすべての柱穴で柱痕が確認できた。柱痕の直径は、ほぼ20cmである。
- 出土遺物 遺物は出土していない。

##### SB02(図版9)

- 検出状況 下側平坦部の中央に位置する。梁行1間以上、桁行3間以上からなる掘立柱建物と推定される。建物の南側部分は復元できなかった。柱間の距離は、梁・桁行ともに1.7mで、ほぼ等間隔である。
- 形状・規模 N-64°-Eに主軸をとると推定され、桁行2間以上、梁行4間からなる掘立柱建物である。
- 柱穴 P27、28、32、43、46、48から成る。掘方の平面形は円形である。径は60~30cmを測る。検出された柱穴のうち柱痕が検出できたのは、P27、32、48である。柱痕の直径は約25~20cmである。
- 出土遺物 須恵器の坏A(13、14、15)、坏B蓋(16、17、18)が出土している。

##### SB03(図版10)

- 検出状況 SB02の西側に位置する。

形状・規模	N-54°-Eに主軸をとると推定され、桁行2間以上、梁行2間以上からなる掘立柱建物である。柱間の距離は、梁行が1.5m、桁行が2.0mである。
柱 穴	P51、55、53、59、61から成る。掘方の平面形は円形である。径は50~40cmを測る。検出された柱穴のうち柱痕が検出できたのは、P51である。柱痕の直径は約30cmである。
出土 遺 物	遺物は出土していない。

## 2. 土 塹

### S K 0 3 (図版5)

検出状況	A-3区で検出された。SX03を切り込んで掘削されている。
形状・規模	平面形は楕円形で長径が1.1m、短径が0.86m、深さは0.1mを測る。埋土は褐色細砂で底面より炭が検出された。
出土 遺 物	底面より土師器皿(5、6)が出土している。

### S K 0 5 (図版7)

検出状況	A-3区で検出された。平成6年度確認調査第2トレンチにかかる。他の遺構との切り合いは認められない。
形状・規模	平面形は、楕円形で長径は1.55m、短径は0.6mを測る。検出面からの深さは最深部で0.3mを測る。埋土は黄褐色の細砂である。
出土 遺 物	底面より須恵器壺(10)が出土している。

### S K 0 6 (図版6)

検出状況	B-3区で検出された。平成6年度確認調査第2トレンチにかかる。他の遺構との切り合いは認められない。
形状・規模	平面形は、不定型な楕円形で長径は2.4m、短径は1.1mを測る。検出面からの深さは最深部で0.35mを測る。
出土 遺 物	遺物は出土していない。

### S K 0 7 (図版6)

検出状況	B-3区で検出された。平成6年度確認調査第2トレンチにかかる。他の遺構との切り合いは認められない。
形状・規模	平面形は、不定型な隅丸方形で長径は2.3m、短径は1.1mを測る。検出面からの深さは最深部で0.45mを測る。
出土 遺 物	遺物は出土していない。

### S K 1 0 (図版6)

検出状況	B-2区で検出された。他の遺構との切り合いは認められない。
形状・規模	平面形は、隅丸の長方形で長辺は2.7m、短辺は0.7mを測る。検出面からの深さは

最深部で0.2mを測る。  
出土遺物 遺物は出土していない。

#### S K 1 5 (図版7)

検出状況 D-5区で検出された。段状遺構の東側で検出された。他の遺構との切り合いは認められない。  
形状・規模 平面形は、ほぼ不定型な楕円形で長径は3.8cm、短径は1.4mを測る。検出面からの深さは最深部で0.6mを測る。  
出土遺物 須恵器壺片が出土している。

#### S K 1 6 (図版7)

検出状況 D-1区で検出された。SD01と切り合い関係が認められる。  
形状・規模 平面形は、不定形で長径は2.4m、短径1.5mを測る。検出面からの深さは最深部で0.3mを測る。  
出土遺物 底面より須恵器壺(11)、壺の底部(12)が出土している。

#### S X 0 1 (図版5)

検出状況 大牟山古墳開塗区で検出された。他の遺構との切り合いは認められない。  
形状・規模 平面形は、隅丸の長方形で長辺が3.0m、短辺が0.95mを測る。検出面からの深さは0.3mを測る。  
埋土は最上層は10~5cm大の礫が入っており、下層は褐色中砂である。  
出土遺物 上層の礫の間より須恵器の壺(8)、刀子(F1)、鉄鏡(F2)が出土している。

#### S X 0 2 (図版5)

検出状況 B-2区の標高59mのところで検出された。検出時には上層は礫が入っており、下層は褐色中~細砂である。  
形状・規模 平面形は、隅丸の長方形で長辺が2.1m、短辺が1.0mを測る。検出面からの深さは0.25mを測る。  
出土遺物 底面より須恵器壺蓋(9)、壺(7)が出土している。

#### S X 0 3 (図版5)

検出状況 A-3区で検出された。SK03と切り合い関係が認められる。平成6年度確認トレチ2により、分断された形で検出された。  
形状・規模 平面形は、隅丸の方形で長辺は3.6m、短辺は0.8mを測る。検出面からの深さは最深部で0.05mを測る。  
出土遺物 底面より須恵器壺蓋(1、2、3)と高壺の壺部(4)が出土している。

#### S X 0 4 (図版7)

- 検出状況 A-3区で検出された。他の遺構との切り合いは認められない。
- 形状・規模 平面形は、隅丸の方形で、長辺は4.2m、短辺は2.0mを測る。検出面からの深さは0.05mと比較的浅い。
- 埋土は褐色細砂である。
- 出土遺物 遺物は出土していない。

#### 3. その他の遺構

##### S A 0 1 (図版7)

- 検出状況 C-1区の標高51.5mの等高線に沿うような位置で検出された。P91、92、93、94から成る。
- 形状・規模 ピットの平面形は、ほぼ円形で直径は40~30cmを測る。検出面からの深さは0.1mを測る。各ピットの間隔は1.6~1.4mである。
- 出土遺物 遺物は出土していない。

##### S D 0 1 (図版11)

- 検出状況 D-1~4区で検出された。標高49mの等高線に沿うように延び、斜面と平坦部の間を区画するように検出された。斜面から平坦部への水の流れ込みを防ぐために掘削されたと考えられる。SB02の北東部付近で土師器壺がまとまって出土している。
- 形状・規模 延長は45mを測る。断面は浅い「U」字状を呈する。検出面からの深さは最深部で0.2mを測る。
- 出土遺物 底面より須恵器壺B(21)、須恵器鉢(22)、土師器壺(23、24、25)が出土している。

##### S D 0 2 (図版12)

- 検出状況 D-2~3区で検出された。
- 形状・規模 延長は約7mを測る。断面は浅い「U」字状を呈する。西側の端は南側に直角に曲がる。検出面からの深さは最深部で0.1mを測る。SB01と関連する遺構と考えられる。
- 出土遺物 時期不明の土師器片が出土している。

##### S D 0 3 (図版12)

- 検出状況 D-2~3区で検出された。断面は浅い「U」字状を呈する。SD01のすぐ南側に平行して伸びる。
- 形状・規模 延長は2.5mを測る。検出面からの深さは最深部で0.1mを測る。
- 出土遺物 遺物は出土していない。

#### SDO 4 (図版12)

- 検出状況 D-2～3区で検出された。東西方向に直線的に伸びており、東の端は調査区の外に出ている。検出された溝の中で唯一等高線に沿わない溝である。
- 形状・規模 延長は3.5mを測る。断面は浅い「U」字状を呈する。検出面からの深さは最深部で0.1mを測る。
- 出土遺物 遺物は出土していない。

#### 段状遺構 (図版7)

- 検出状況 D-4区で検出された。
- 形状・規模 平面形は、不定型な椭円形で長径は4.0m、短径は1.3を測る。検出面からの深さは0.2mを測る。
- 出土遺物 遺物は出土していない。

### 第3節 遺 物

#### 1. 全体の概要

出土総量は、28ℓ入りコンテナで換算すると24箱分になった。須恵器と土師器のそれぞれの重量は、須恵器が35.13kg、土師器が13.62kgである。出土した場所では、須恵器がB-3区からが最も多く、土師器はD-2区のSX05からが最も多い。出土した遺物の時期は、古墳時代のものと奈良時代のものとに大別できる。斜面の上側のA区のものは古墳時代の遺物が多く、斜面下側の平坦部のD区からのものは奈良時代の遺物が多い。出土した遺物の中には残存する部位によって復元できなかったものも少なくなつた。

#### 2. 須 惠 器

##### 环H蓋 (1、2、3、9)

1は天井部はやや丸みを帯び、体部は口縁部にかけて丸みを持つ。天井部と体部の境には明瞭な稜を持つ。口縁の端部は内側に傾斜する。2は、天井部が全体的に丸みを帯びており、天井部と体部の境のはやや小さめである。体部は直線的で、口縁端部は内側に傾斜する。3は、天井部はやや丸みを帯び、天井部と体部の境の稜は小さめである。体部は直線的であり、口縁端部は内側に傾斜する。9は、天井部はやや丸みを帯び、体部は口縁部にかけて丸みを持つ。天井部と体部の境には明瞭な稜を持つ。口縁の端部は内側に傾斜する。

##### 环H (7、19)

7は、立ち上がりは内傾しており、口縁端部は内側に傾斜する。受け部はやや上反する。受け部と立ち上がりの端部にはヘラ状工具による凹線が巡る。田辺昭三による編年でTK23型式に比定される。19は立ち上がりが内傾して低いタイプで、大きさは小ぶりで底部は平坦である。田辺編年でTK207型式に比定される。

##### 环A (10、11、13、14、15)

底部に高台を持たないタイプの環で、底部と体部との境に明瞭な境界が無く、緩やかに立ち上がるも

のと底部と体部の境界に明瞭な境界があり、境界から直線的に立ち上がるものとに区分できる。

10、13、14、15は、底部と体部の境に明瞭な境を持たないタイプで、体部の中央に強いナデによるへこみがある。11は、底部と体部の境に明瞭な境が有り、体部は直線的に伸びる。

#### 坏B (21, 29, 30, 36)

やや外側に聞く高台を持つ坏で、体部が比較的垂直に立ち上がるものと体部が斜めに立ち上がるものとに区分できる。21は体部が垂直に立ち上がるタイプで体部と底部の境は明瞭でない。29、30は体部が斜めに立ち上がるタイプで、29は体部と底部の境が明瞭でなく、30は底部と体部の境が明瞭である。36は体部が丸みをもって斜めに立ち上がる。

#### 坏B蓋 (16, 17, 18)

天井部に扁平なツマミを有する蓋である。16は天井部は平坦であるが、口縁部にかけてやや丸みをもち、口縁の端部は、やや内傾する。端部の先端は少し丸みを持つ。17は16よりも天井部に丸みが少なく、全体に扁平である。口縁部は垂直に下がる。端部の先端は鈍い稜をなす。18は天井部の一部から口縁部にかけて残存していた。端部は垂直よりやや外反ぎみに下がり先端は鈍い稜をなす。

#### 高坏 (4, 27, 28)

4は坏部分のみが残存した。口縁部は短く外反する。口縁部と底部の境には稜がある。稜のすぐ下の体部には櫛描きの波状文を巡らしている。波状文の下には凹線が1条巡っている。27、28は1段透かしの脚部で27の方は調整が不明瞭であるが、28の方は搔き目が施されている。

#### 塊 (20, 31, 34)

20は9世紀代の塊である。丸みをもつ体部をもち、体部の中央に沈線を1条巡らす。垂直に削りだした高台を持つ。底部は回転糸切りである。口縁部は残存していなかった。31は12世紀代の塊である。丸みをもちらながら斜めに立ち上がる体部を持つ。口縁端部は丸く仕上げている。見込みの部分はくぼみがある。底部は回転糸切りである。34は小型の塊と考えられる。口縁部のみ残存していた。丸みのある体部で外面にはヘラ記号状の線刻が3条継に刻まれている。

#### 脛 (8)

8は、口縁部から底部まではほぼ復元できたが、注口部付近は欠損している。頭部は、さほど大型化が進んでおらず、直線的に聞く。2本の断面三角形の稜の間に櫛描きの波状文を巡らす。体部は、ほぼ球形に近いが、底部がやや尖底である。体部外面の上半分は横ナデ調整で、下半分は不定方向のタタキ、体部の内面の上半分は横ナデ、下半分は青海波紋の当て具の痕跡が残る。

#### 壺 (12, 38)

12は底部付近のみ残存していた。長頭壺の可能性がある。丸みのある体部としっかりと外側に踏ん張る高台を持つ。38は長頭壺である。口縁部を欠いている以外は、ほぼ復元できた。体部はやや細長く肩部と体部と頭部の境にそれぞれ一条の沈線を巡らしている。底部には高台は無い。調整は体部の内外面共に横ナデである。

#### 鉢 (22)

いわゆる鉄鉢型の鉢である。口縁部のみが残存していた。底部の形状は不明である。器壁は口縁に近くほど薄くなる。端部は平坦な面をもつ。調整は横ナデである。

#### 硯 (35)

円面硯1点が出土した。上面の約4分の1が残存している。硬面部の陸部はかなり使用されており、

摩耗している。内堤はわずかに立ち上がる程度であるが、海の部分は深い。縁はやや細めで外傾しており、上面はわずかに平坦面を持つ。脚台部はほとんど残存しなかつたが、長方形透かしである。

#### 甕 (32)

口縁部のみが出土している。外面には口縁端部から順に綾杉文状の指突文、凹線が2条、櫛描き波状文、凹線が2条、交差する指突文の順で施されている。口縁端部は、やや内傾して中がへこむ。

### 3. 土 師 器

#### 甕 (23, 24, 25)

口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は垂直面を呈するが、23と24は外側の端部がやや張り出す。体部の外面は刷毛目で仕上げられている。長胴甕の一部分と考えられる。

### 4. その他の遺物

#### 青磁碗 (33)

底部のみが出土した。「金玉滿堂」の刻印がある。

#### 不明土製品 (37)

口縁部、底部とも残存していないが、復元するとちょうど蛸壺の様な形状になると考案される。幅2cmほどの紐状の粘土を巻き上げた痕跡が残る。胎土は砂粒を多く含んでいる。

#### 金属製品 (F 1, F 2)

##### 刀 子 (F 1)

鋒部分が欠損しているが他の部分は遺存していた。闇は刃側だけの片闇である。残存長は11.6cm、闇幅1.6cm、茎部は長さ4.2cm、幅1cm、厚さ0.5cmを測る。

##### 鎌 (F 2)

先端部と片側の逆刺を欠損する。残存長は6.8cm、闇被長は0.6cm、厚さは0.05cm、鎌身の形状は脇挟柳葉式の短頭鎌で断面は平造り、逆刺は外側に開き気味で先端は斜めに切り落とされた形状である。矢柄が部分的に銷化して遺存していた。矢柄を鎌身に固定する為の糸等の有機質は遺存していなかった。鎌身に挟み込む形状である。

#### 石製品 (S 2, S 3)

##### 不明石製品 (S 2)

材質はサヌカイトで表裏両面に平らな面をもち、研磨された痕跡が残る。全部で4個体分の破片になっていたが、破断面の風化が余り進んでいないことから、使用後もしくは発掘の段階で割れた物と考えられる。遺物の本来の用途は不明であるが何らかの製品の未製品の可能性もある。

##### 砥 石 (S 3)

材質は砂岩系の石材である。形状は細長い直方体で、端面を除く各面はかなり研磨された痕跡が残る。

## 第4章 大年山古墳の調査

### 第1節 概 要

大年山古墳は、三本市別所町和田字大年山の南東方向に伸びる尾根の中腹に位置する。平成7年度に実施した第2次確認調査の際に周溝が検出され、存在が明らかになった古墳である。第2章第2節の歴史的環境の項で既述のように三木市の遺跡分布地図によると、同じ尾根筋の上にさらに2基の古墳の存在が確認されている。

今回の調査により、主体部は3基検出できた。いずれも木棺直葬であった。主体部からの出土遺物は無かった。周溝の北西隅付近の底より須恵器の壺蓋、壺身、釜、甕、土師器の壺、甕が出土している。

### 第2節 遺 構

#### 1. 立 地

大年山古墳は、小野台地の南端に当たる美嚢川右岸の山塊の南東方向に伸びる尾根の中腹の標高61mの地点に位置する。古墳の位置は、美嚢川や盆地状になった現在の三木市内が一望できる開けた場所である。

#### 2. 墳 丘

現存する墳丘は、東西が7.5m、南北が8.5m、墳丘の高さは0.3mを測る。尾根の上方をコの字形に削り込んで方形に区画している。墳丘の盛り土は、周溝を掘削した際の土などを盛ったが、流出して残存していないと考えられる。

#### 3. 埋 葬 施 設

主体部は合計3基確認できた。主体部の掘方の土は墳丘の盛土の土とは明らかに異なる為、比較的検出しやすかったが、主体部内の木棺の痕跡の検出は困難であった。

##### 主体部1

墓塙の掘方の規模は長辺2.2m、短辺0.95m、検出面からの深さは0.1mである。東側の辺は確認トレンチのために残存しない。木棺は、ほぼ中央に埋置されていた。主軸の方向はN-25°-Eである。木棺の規模は全長1.75m、西小口は0.5mを測る。

##### 主体部2

墓塙の掘方の規模は長辺が残存長1.5m、短辺0.6m、検出面からの深さは0.05mである。東側の辺は確認トレンチのために残存しない。木棺の痕跡は確認できなかった。

##### 主体部3

墓塙の掘方の規模は長辺2.5m、短辺1.35m、検出面からの深さは0.2mである。東側の辺は確認トレンチのために残存しない。木棺は墓塙のはば中央に埋置されている。主軸の方向はN-28°-Eである。木棺の規模は全長2.15m、西小口1.05m、東小口1.2mを測る。

## 4. 周溝

周溝は、斜面の上方をコの字状に巡っている。周溝の幅は2.1~1.5m、溝の断面形は浅いU字形で、深さは0.2mを測る。周溝の北西角の底部より須恵器の壺(39、40、41)、甕(42)、甕(45)、土師器の塊(43)、甕(44)などが出土している。

## 第3節 遺物

遺物は、周溝の北西隅の底より須恵器壺蓋、壺身、甕と土師器塊、甕が出土した。主体部の掘方及び棺内からは、遺物は出土していない。

### 1. 須恵器

#### 壺

蓋1点と身が2点出土している。

##### 壺H蓋(39)

全体に焼きひずみがある。天井部は丸みを帯び、体部は直線的に垂下する。体部と天井部の境には明瞭な稜が巡る。口縁の端部は内面に傾斜しており、強くナデられてへこんでいる。

##### 壺H身(40、41)

40はやや大振りである。立ち上がりはやや内傾しており口縁端部は内面に傾斜する。端面には凹線が巡る。受け部は上反しており、先端は比較的シャープである。

41は立ち上がりはほぼ垂直で、内側にふくらみを持つ。口縁端部は内面に傾斜しており、端面に凹線が巡る。受け部上反しており、先端は比較的シャープである。

##### 甕(42)

頸部から体部の途中までが残存していた。頸部には断面三角形の稜が1条巡っている。肩部と体部の境付近に搔き目が巡らされている。底部の先端は残存しないが、やや尖り気味であったと推測できる。

##### 甕(45、46)

45は斜めに直線的に開く口縁で、端部は外側に開く。端部付近に2条の断面三角形の稜が巡る。頸部は斜め方向のタタキが残る。体部外面は平行タタキ目が、内面には青海波紋が残る。

46はやや反り返りながら開く口縁付近で段が付く。端部は外側に傾き、端面はへこんでいる。口縁部の外側には断面三角形の稜が巡る。頸部の内外面の調整は不明である。体部の外面は平行タタキ目が、内面には青海波紋が残る。体部は、やや肩が張ったような形状である。

### 2. 土師器

#### 塊(43)

口縁部のみが残存していた。全体に丸みを持つ体部で口縁の先端はやや尖り気味である。摩耗が著しく、全体の調整は不明である。

#### 甕(44)

やや反り返りながら「く」の字状に外反する口縁を持つ。調整は全体に縱方向の刷毛目調整であるが、口縁部の内面は、横方向の刷毛目である。

## 第5章 ま　と　め

今回の調査では、丘陵の南側斜面から下側の平坦部までを調査した。調査の結果、斜面に散在している土坑と方墳、平坦部の境を区画する溝、ピットや土坑などが検出された。ピットからは、掘立柱建物を3棟復元することができた。これらの遺構は、出土遺物を検討した結果、古墳時代後期と奈良時代の2時期に大別できる。古墳時代後期に属する遺構は標高60m付近の斜面より、奈良時代に属する遺構は調査区南側の平坦部を中心に検出された。調査区の大半が斜面であったため、調査面積に比して検出できた遺構の数は少なかった。

### 1. 古墳時代の遺構

今回の調査では、標高60m付近の斜面より土坑を多数検出したが、そのうち4基は墓壙と考えられる。遺物を伴うのはSX01、02だけでは遺物は伴わなかった。SX01より出土した遺物は、須恵器甌と鉄鍬、刀子といった鉄製品である。須恵器は田辺縦年のTK23~47型式に併行すると考えられる。SX02からは坪口蓋が出土している。遺物は伴わなかったが、SK07とSK10も方形に近い掘方であるため、墳丘を伴わない墓壙の可能性が高いと考えられる。

### 2. 大年山古墳

調査区北東隅の標高60m付近の斜面において方墳1基を検出した。立地は、北西から南東方向へと張り出す小さな尾根筋の上に当たる。この尾根筋には周知の古墳、大年山1号墳~大年山4号墳までの4基の古墳がある。今回は、そのうちの一一番、尾根の先端部分に位置する大年山3号墳について調査した。

墳丘の規模は東西が7.5m、南北8.5mで深さ20cmの周溝が巡る。主体部は木棺直葬であった。遺物は、主体部の中からは出土せず、周溝の北西隅より須恵器の甌、腹、甕などが出土している。出土した須恵器の時期は田辺縦年のTK23~47型式に併行すると考えられる。

#### 周辺の古墳群

大年山古墳の北側の三木市と小野市の市境には、台地状の丘陵が広がっており、細かい谷が入り組んでいる。この丘陵地帯を中心として周知の遺跡である大才谷・草荷野古墳群、櫻山古墳群が広がっている。これらは大きく見れば総数200基ほどの規模の大群集墳であるが、三木市側に属する支群を大才谷・草荷野古墳群、小野市側に属する支群を櫻山古墳群と称している。これらの古墳の中でこれまでに調査されたのは、わずかに4基のみである。さらに細く見れば、これらの古墳群は丘陵の尾根筋や斜面を単位に全部で10の支群にまとまって分布している。これらの古墳の中でも最大の規模の古墳は52号墳で、墳丘の規模は34mを測る円墳であり、主体部は不明である。埴輪をもっていたとの伝聞もあり、このあたりの首長クラスの人物の墓と考えられている。古墳の築造時期は6世紀後半と考えられている。それ以外の古墳は、墳丘の規模も10m前後の円墳で主体部は木棺直葬、6世紀後半~7世紀前半を中心に築造されたと考えられている。

### 大年山古墳の特徴

大年山古墳の特徴としては、次の2つの点が挙げられる。①現在確認されている大才谷・草荷野古墳群、櫻山古墳群の古墳の中でも数少ない方墳であること。②古墳の築造時期が6世紀前半頃と考えられ、これらの古墳群の中でも早い時期の築造であること。

### 3. 奈良時代の遺構

調査区の南側の平坦地から3棟の掘立柱建物が検出された。これらの建物は、斜面と平坦部の傾斜変換点に沿って掘られた溝に沿うように建てられている。溝については、斜面から流れ込む流水を遮断するために掘られた物と考えられる。これらの建物の配置は、平成8年度に西隣で調査された和田神社遺跡で検出された掘立柱建物の配置と酷似している。ただ、遺構の時期は、和田神社遺跡のほうが7世紀代を中心としており、時期的な開きがある。和田神社遺跡の調査区との間に大きな谷があり、この谷を挟んで遺跡の時期が異なっている。掘立柱建物群は、平坦部の東側（D-1区）と西側（D-4～6区）において、数棟が存在した可能性もある。調査区の南側は比較的傾斜が緩やかになっており、現在も集落が存在している。遺跡の中心は、現在の集落の下にあると考えられる。また、D-0区からは円面鏡が出土しており、この建物群の性格を考える上で示唆を与えてくれるものである。調査地の南西600mの位置にある小和田神社遺跡では、白鳳時代の瓦塔の断片と見られる粘土板仏像が採取されおり、付近に寺院ないしは仏教関係の施設の存在が考えられている。これらの遺構と大年山遺跡の関連も今後の検討課題である。

### 4. 結語

大年山遺跡は、今回の調査によりその一部が明らかになった。西側の和田神社遺跡の調査成果も含めてこのあたりの遺跡の全容が見えてくるはずである。

大年山古墳については、大才谷・草荷野古墳群、櫻山古墳群のほんの一部を調査しただけで、古墳群全容の把握は将来の機会を待つほかない。その調査結果によって大年山古墳の位置付けも変化するであろう。今後の周辺の調査の成果を待ちたい。

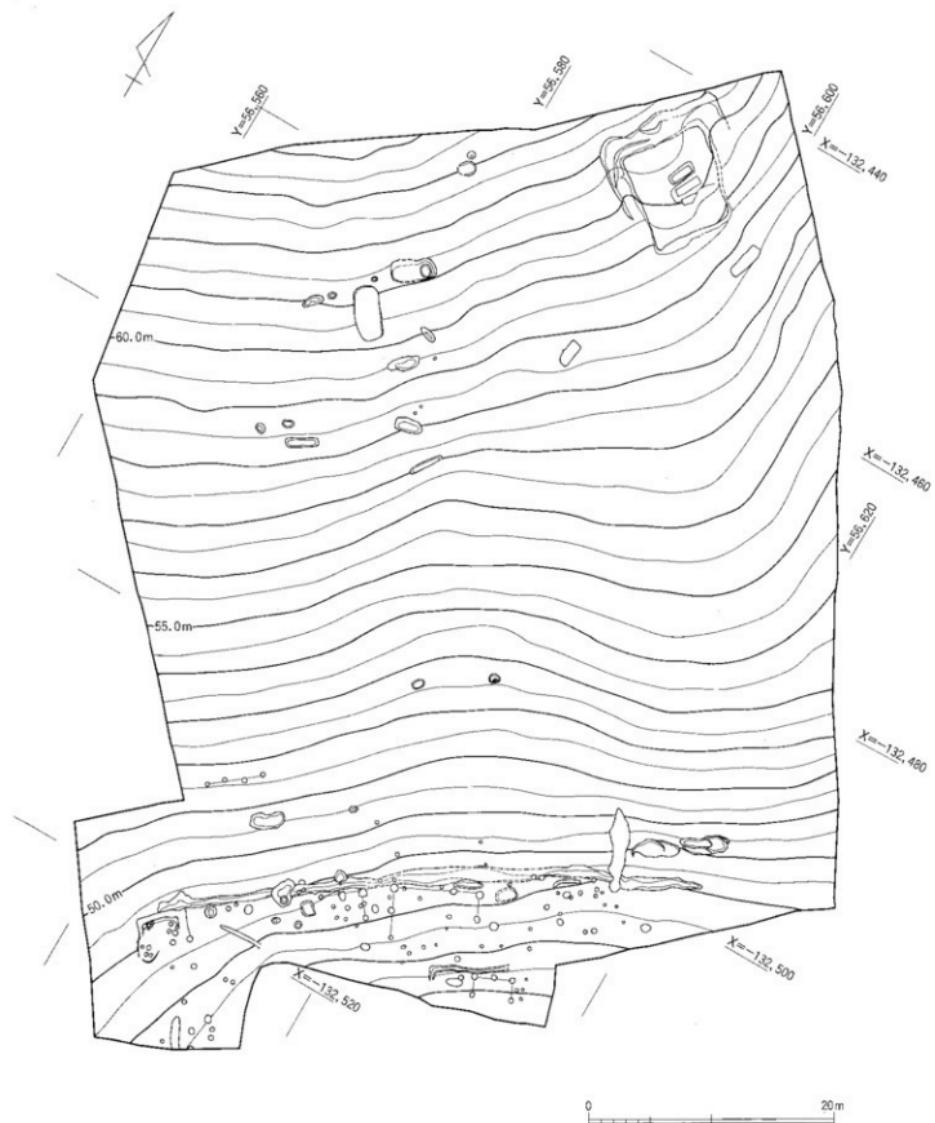
第3表 大年山遺跡・大年山古墳土器類表

No	器種	出土遺構	地区	種別	口径	器高	残存率	調査及び備考
1	环口蓋	SX03	A-3	須恵器	11.2	4.2	口縁1/2、天井部1/2	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
2	环口蓋	SX03	A-3	須恵器	12.6	5.6	口縁1/8、天井部3/4	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
3	环口蓋	SX03	A-3	須恵器	14.2	4.6	口縁~天井部1/2	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
4	高 壁	SX03	A-3	須恵器	14.2	4.4	口縁~体部1/4	体部横ナデ。波状文。底部ヘラ削り
5	壺	SK03	A-3	土師器	12.8	2.3	口縁~底部3/4	底減のため調整不明。底部指痕斑点。
6	壺	SK03	A-3	土師器	12.6	2.5	ほぼ完形	底減のため調整不明。
7	环 H	SX02	A-5	須恵器	10.5	4.3	L口縁3/5、底部1/5	体部横ナデ。底部ヘラ削り。
8	壺	SX01	A-5	須恵器	10.2	4.5	口縁~底部4/5	頭部横ナデ。波状文。体部カキ目。底部タキ。
9	环口蓋	SX02	A-5	須恵器	13.2	4.5	口縁~天井部1/4	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
10	环 A	SK05	D-2	須恵器	14.8	3.5	口縁1/8、底部1/4	体部横ナデ。底部ヘラ切り。底部内面仕上げナデ。
11	环 A	SK16	D-1	須恵器	13.9	3.2	L口縁1/2、底部1/2	体部横ナデ。底部ヘラ切り。底部内面仕上げナデ。
12	壺	SK16	D-1	須恵器			体部~底部1/3	体部、底部横ナデ。
13	环 A	SB02	D-2	須恵器	14.1	4.7	口縁~底部3/4	体部横ナデ。底部内面仕上げナデ。
14	环 A	SB02	D-2	須恵器	13.5	4.2	口縁1/4、底部完存	体部横ナデ。底部ヘラ切り。
15	环 A	SB02	D-2	須恵器	12.3	3.6	口縁~底部1/3	体部横ナデ。底部ヘラ切り。
16	环B蓋	SB02	D-0	須恵器	16	3.3	口縁2/3、天井部2/5	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
17	环B蓋	SB02	D-1	須恵器	18.7	3.2	L口縁2/3、天井部完存	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
18	环B蓋	SB02	D-1	須恵器			L口縁1/3	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
19	环 H	Pit38	D-2	須恵器	11	2.9	口縁~底部1/5	体部横ナデ。底部ヘラ削り。
20	壺	Pit95	D-2	須恵器			底盤2/3、体部1/2	体部横ナデ。底部回転系切り。
21	环 E	SD01	D-1	須恵器	15.2	3.9	口縁~底部1/4	体部横ナデ。底部ヘラ切り。
22	錫	SD01	D-0	須恵器	22		L口縁1/36、体部1/6	体部横ナデ。底部ヘラ削り。
23	壺	SD01	D-3	土師器	20.5		口縁~腹部1/2	頭部、内部横ナデ。体部外腹ハケ日。
24	壺	SD01	D-3	土師器	21.2		口縁1/12、腹部1/2	頭部横ナデ。体部外腹ハケ日。内部横ナケ。
25	壺	SD01	D-3	土師器	24.6		口縁7/12、腹部1/4	頭部横ナデ。体部外腹ハケ日。内部横ナケ。
26	环 H	包含層	A-3	須恵器	12.1	3.6	口縁基1/8	体部横ナデ。底部ヘラ削り。
27	高 壁	包含層	A-3	須恵器			脚部1/8	横ナデ。四方すかし。
28	高 壁	包含層	A-3	須恵器			脚部1/3	カキ目。
29	环 B	包含層	A-3	須恵器	11.2	4	口縁1/3、底部2/3	体部横ナデ。底部ヘラ切り。
30	环 B	包含層	D-2	須恵器	16.5	4.3	口縁1/2、底部完存	体部横ナデ。底部ヘラ削り。
31	壺	包含層	D-4	須恵器	15.4	4.3	口縁4/9、底部完存	体部内外面横ナデ。底部回転系切り。
32	壺	包含層	D-2	須恵器	30		L口縁1/15	
33	壺	包含層	D-4	青 組			底部完存	ナデ後、施釉。
34	壺	包含層	D-0	須恵器	12		口縁1/18	横ナデ。
35	円筒瓶	包含層	D-0	須恵器	16.8		体部1/6	
36	环 B	包含層	D-0	須恵器	15.4	6.3	L口縁~底部1/6	体部横ナデ。底部ヘラ切り。
37	不明品	包含層	D-3	土師器			脚部1/2	横ナデ。
38	壺	包含層	D-3	須恵器	9.7		頭部~底部完存	頭部、体部横ナデ。底部溝整不明。

No	器種	出土遺構	種別	口径	腹径	高さ	残存率	調査及び備考
39	环口蓋	周溝北	須恵器	13.2		5.3	ほぼ完形	天井部ヘラ削り。内面横ナデ。
40	环 H	周溝北	須恵器	12		7.1	口縁部~底部1/2	底部ヘラ削り。内面横ナデ。
41	环 H	周溝北	須恵器	11.3		4.5	口縁1/3	底部ヘラ削り。内面横ナデ。
42	壺	周溝北	須恵器	13.6		頭部2/5、体部3/5	頭部横ナデ。体部カキ目。底部横ナデ。	
43	壺	周溝北	土師器	13		4	L口縁2/3	底減のため調整不明。
44	壺	周溝北	土師器	13.6	15.9	8.7	口縁~体部上半分完存	頭部ハケのち横ナデ。体部外腹ハケ目。
45	壺	周溝北	須恵器	22.8	45.4		口縁2/3、体部1/8	体部タキ。体部外腹平行タキ。内面青滑波文。
46	壺	周溝北	須恵器	26.8			口縁~肩部1/2、体部1/2	体部タキ。体部外腹平行タキ。内面青滑波文。

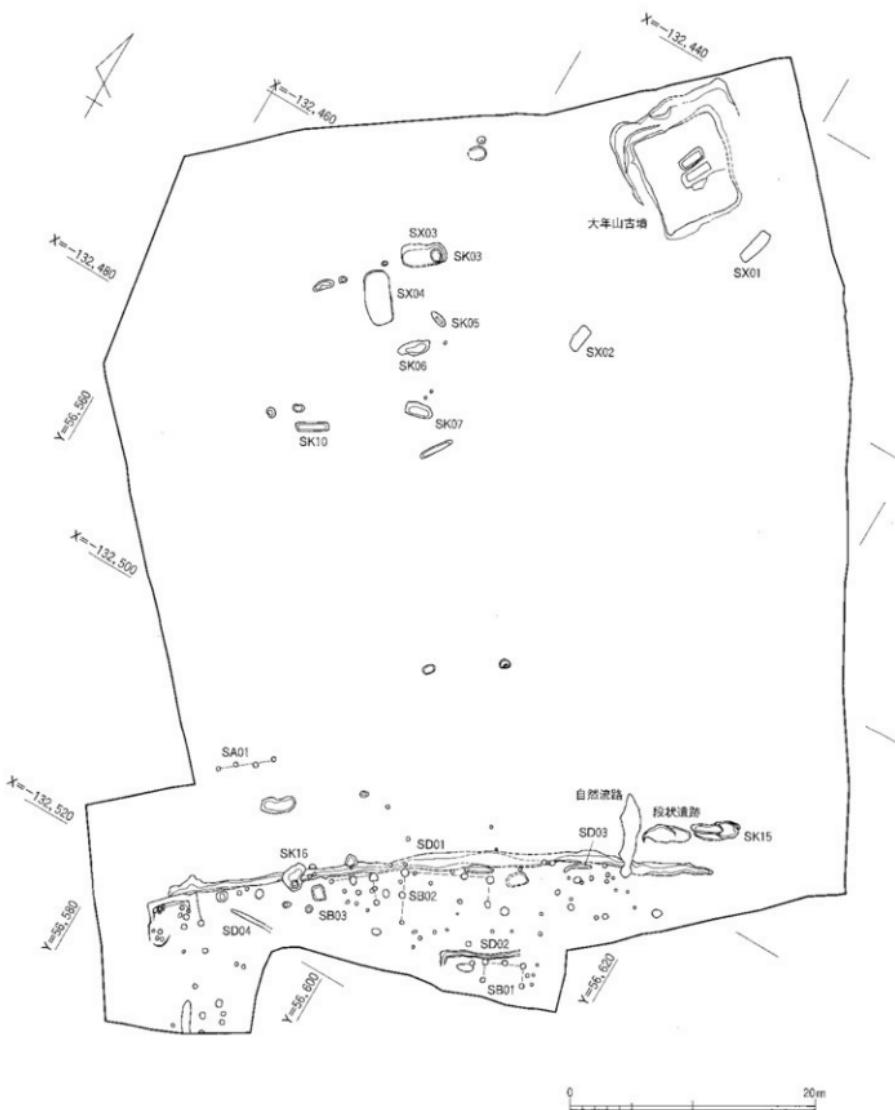
図 版

大年山遺跡



大年山遺跡全体図

## 図版2 大年山遺跡

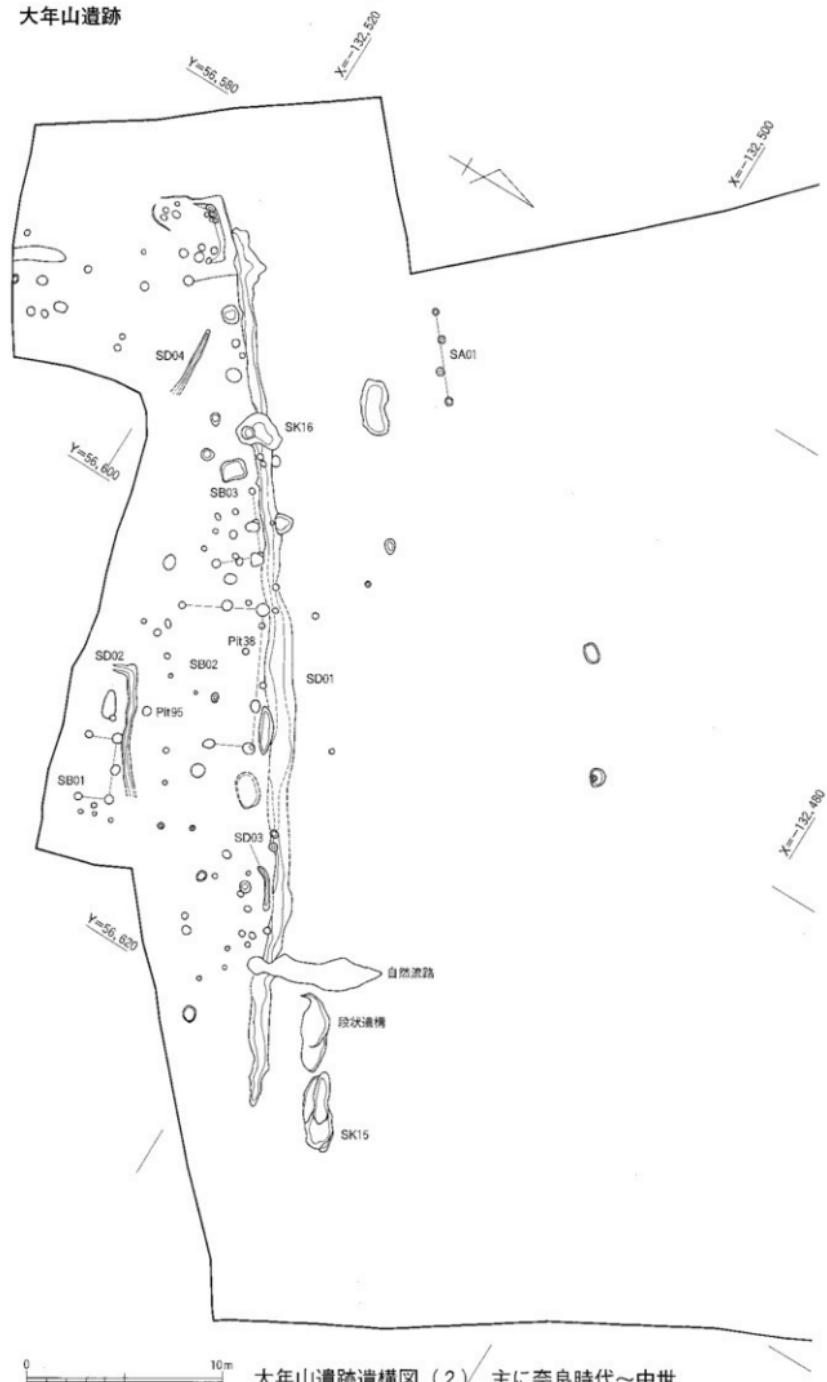


大年山遺跡遺構配置図



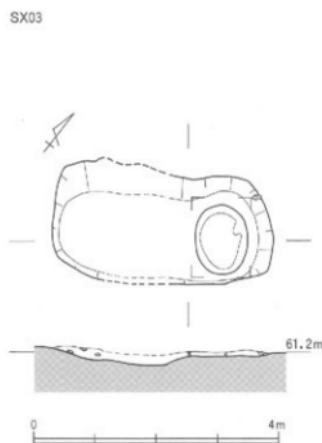
大年山遺跡遺構図（1） 主に古墳時代

図版4 大年山遺跡

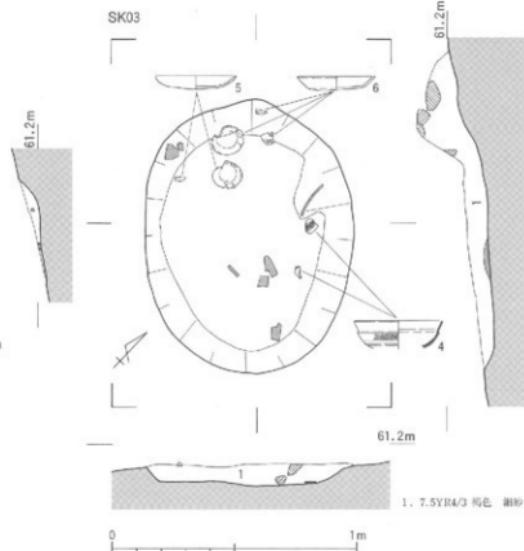


大年山遺跡遺構図 (2) / 主に奈良時代～中世

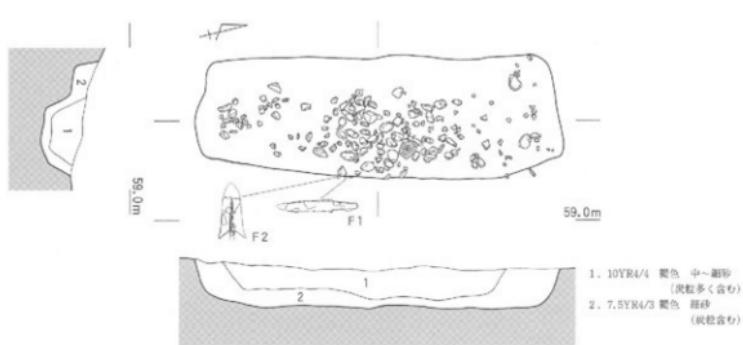
SX03



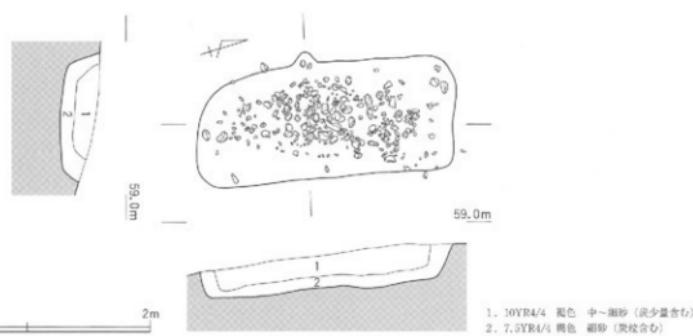
SK03



SX01



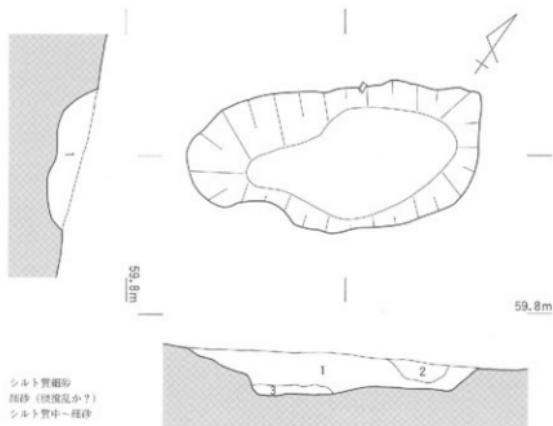
SX02



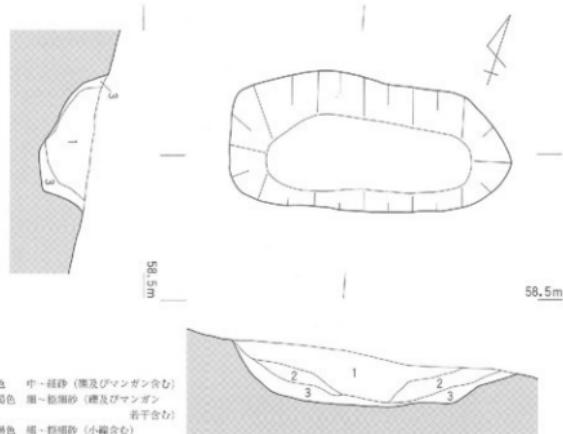
土 坑 (1)

# 図版6 大年山遺跡

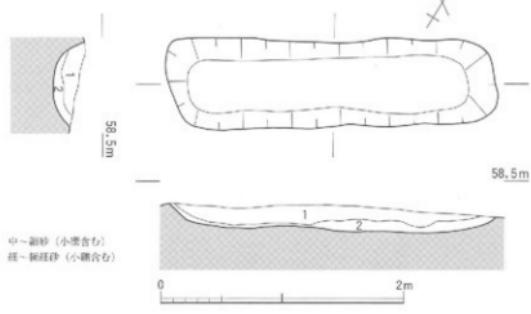
SK06



SK07

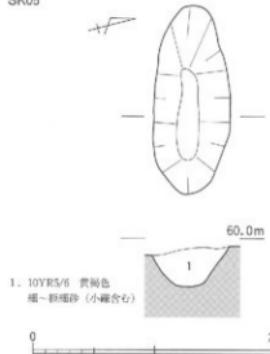


SK10

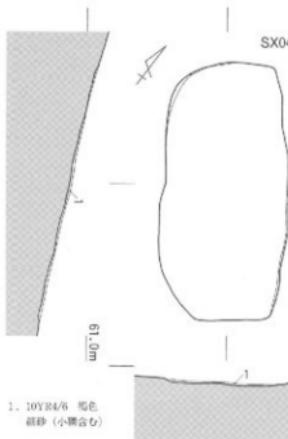
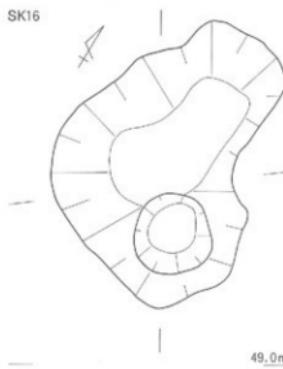


土 坑 (2)

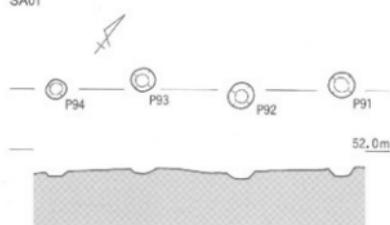
SK05



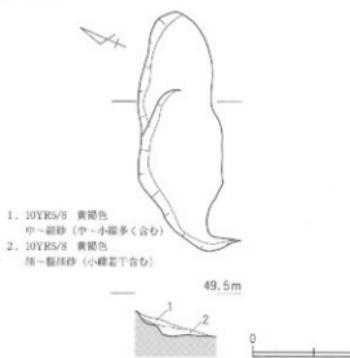
SK16



SA01



段状遺構

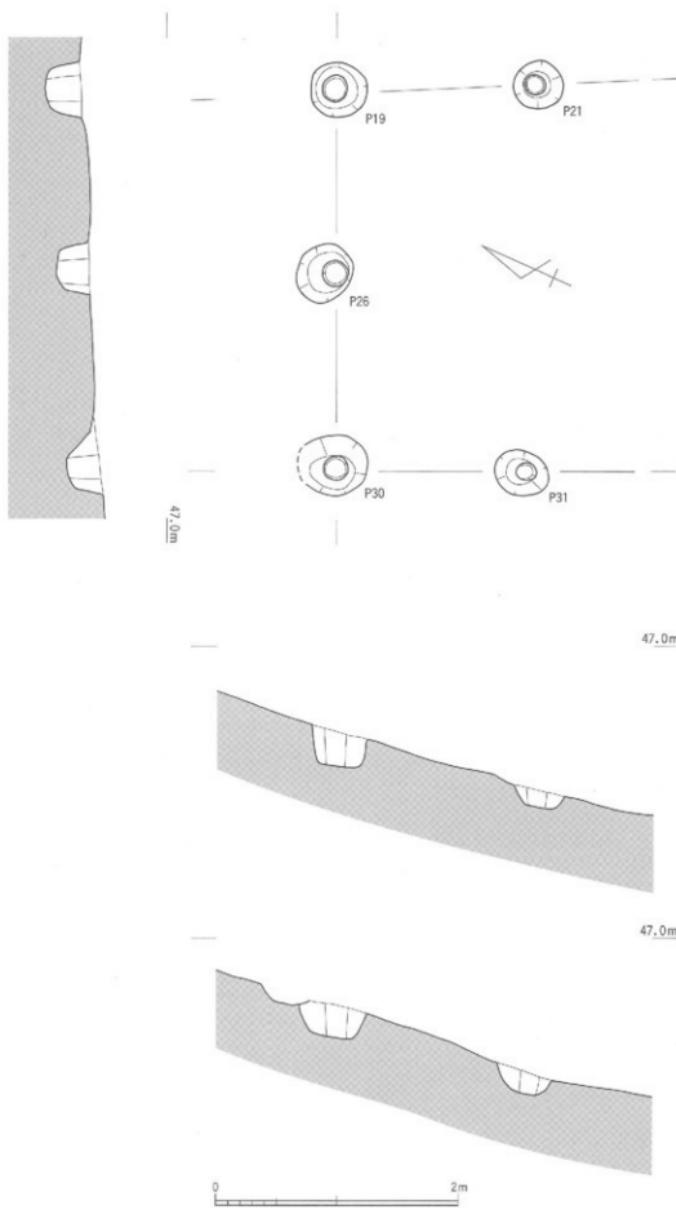


SK15

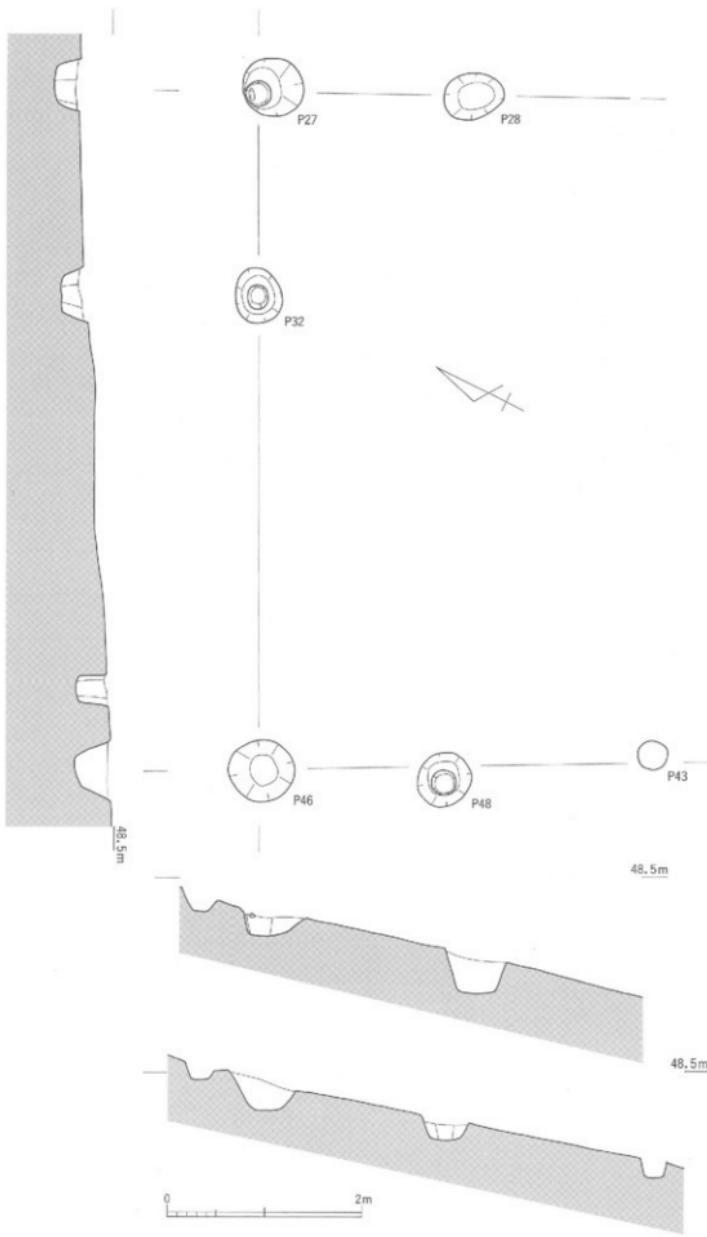


土坑その他

図版8 大年山遺跡

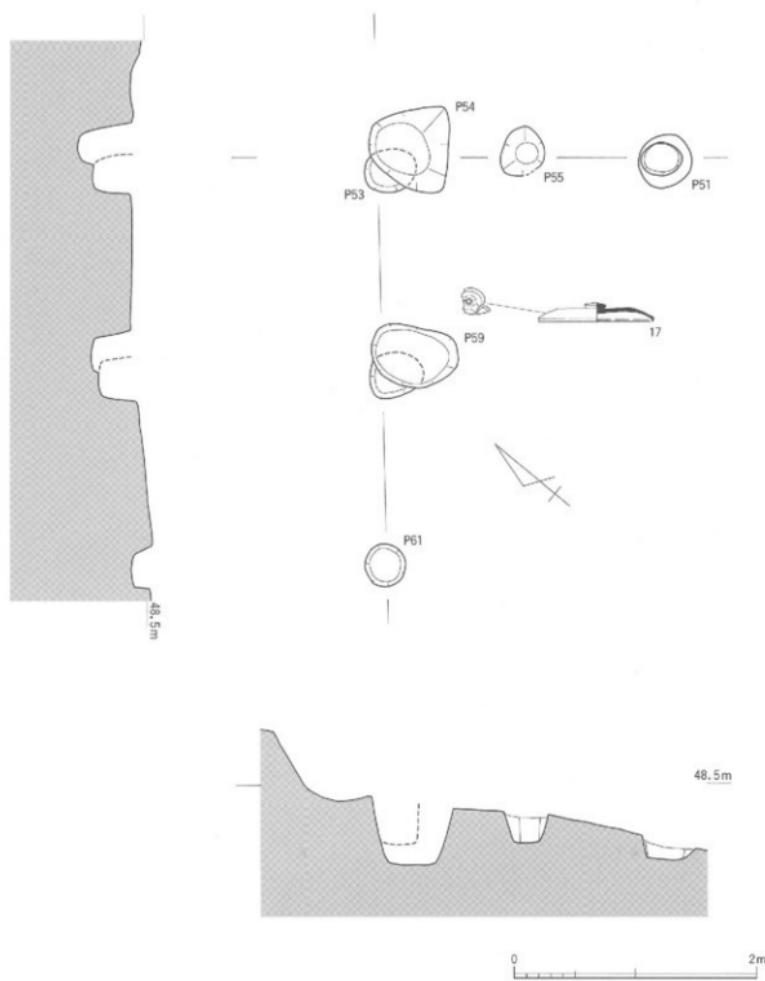


掘立柱建物SB01



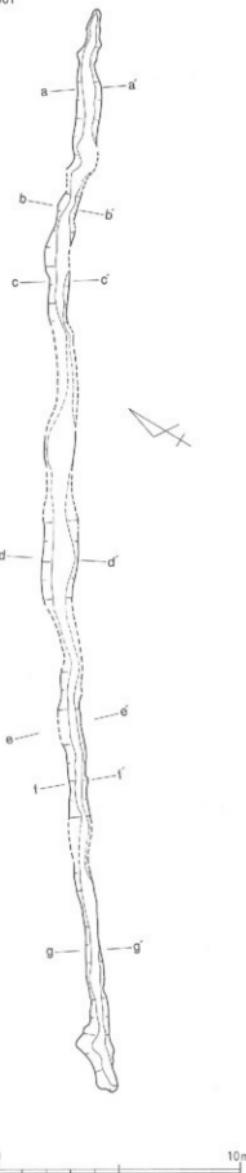
掘立柱建物SB02

図版10 大年山遺跡

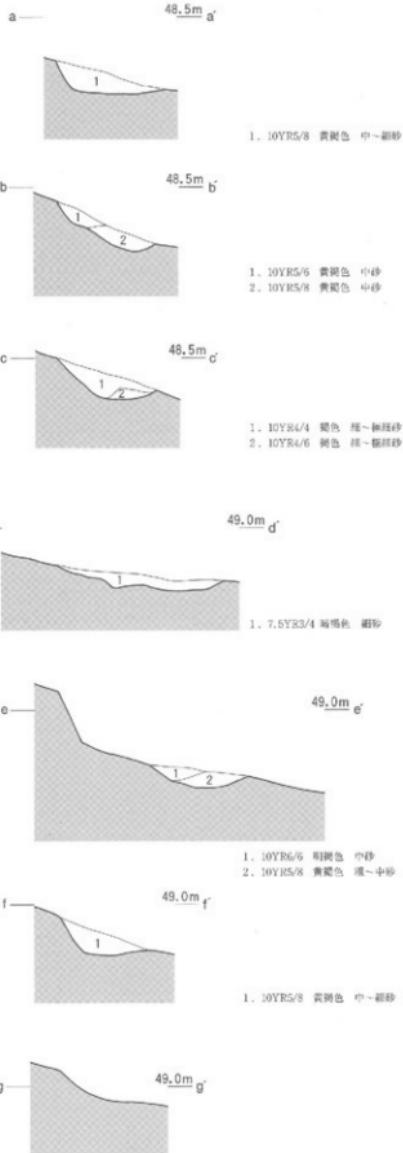


掘立柱建物SB03

SD01

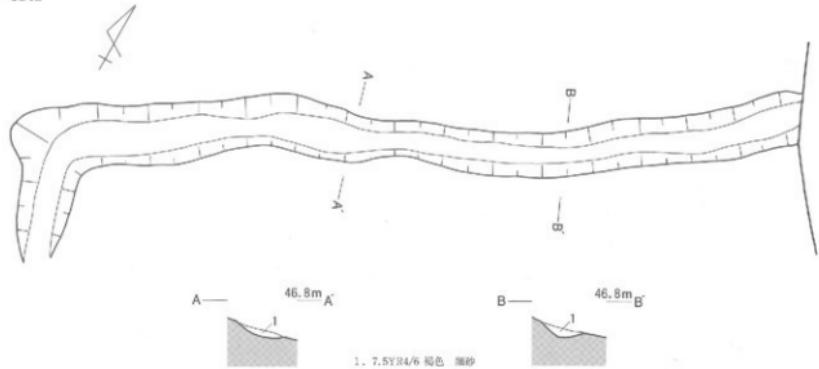


溝 (1)

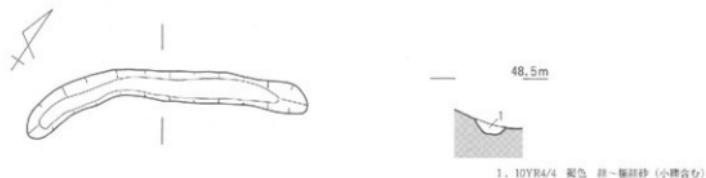


図版12 大年山遺跡

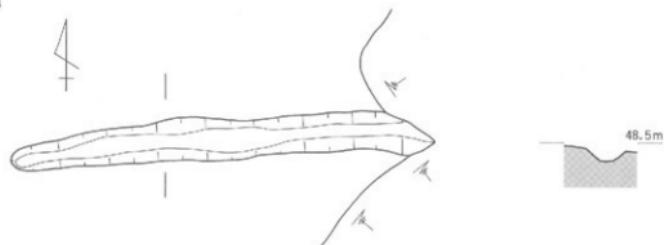
SD02



SD03

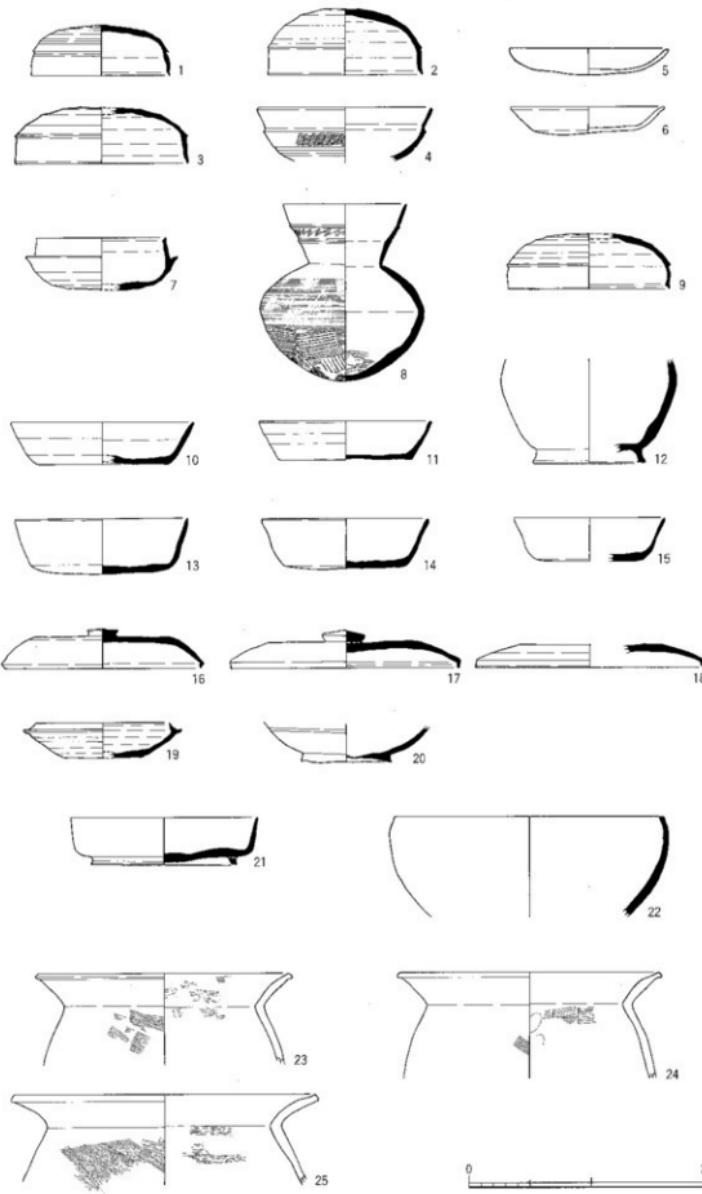


SD04



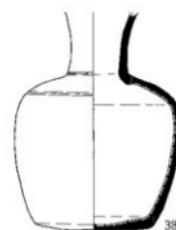
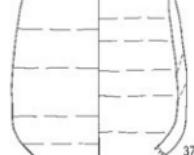
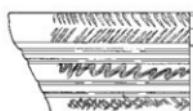
0 2m

溝 (2)

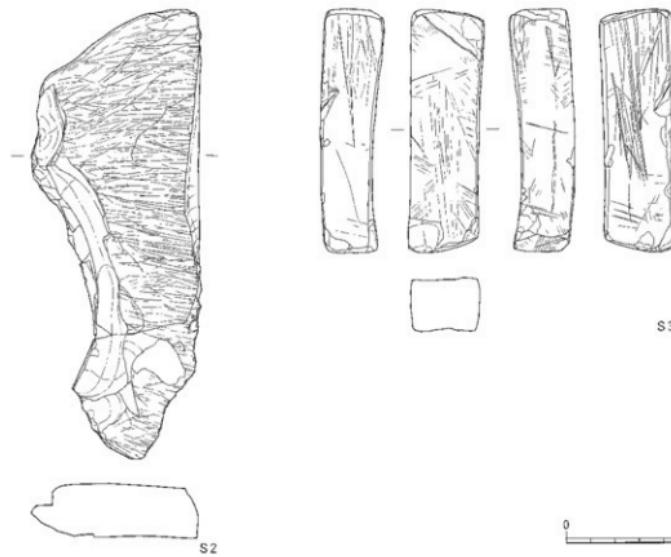
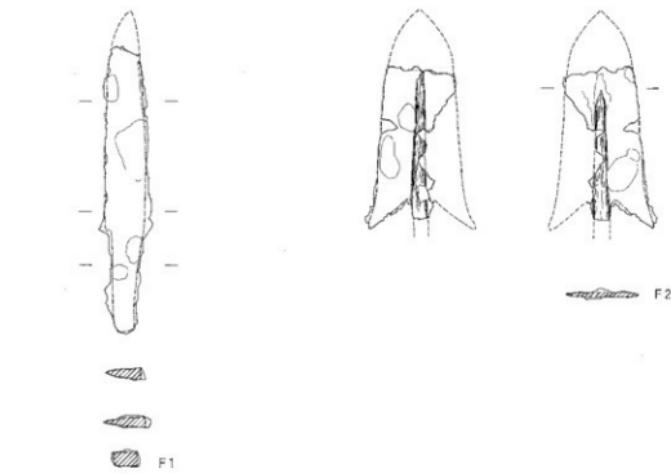


土坑・掘立柱建物・溝出土土器

図版14 大年山遺跡

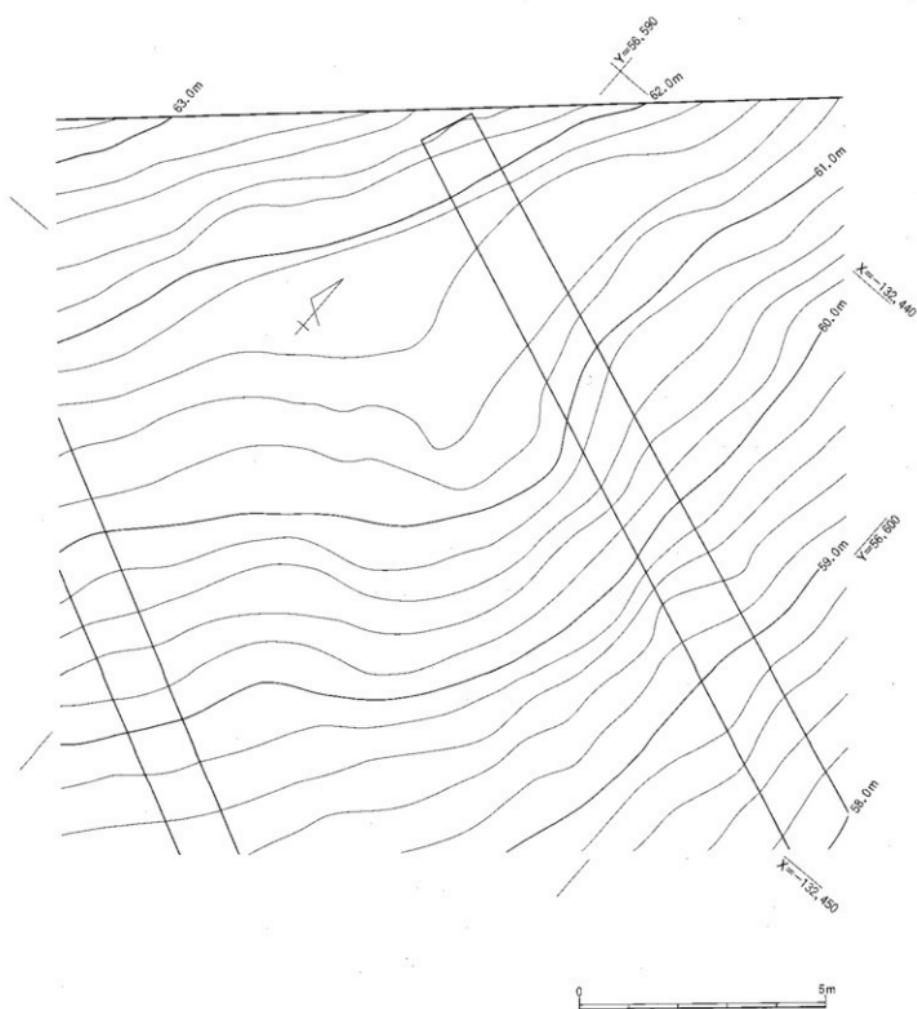


包含層出土土器

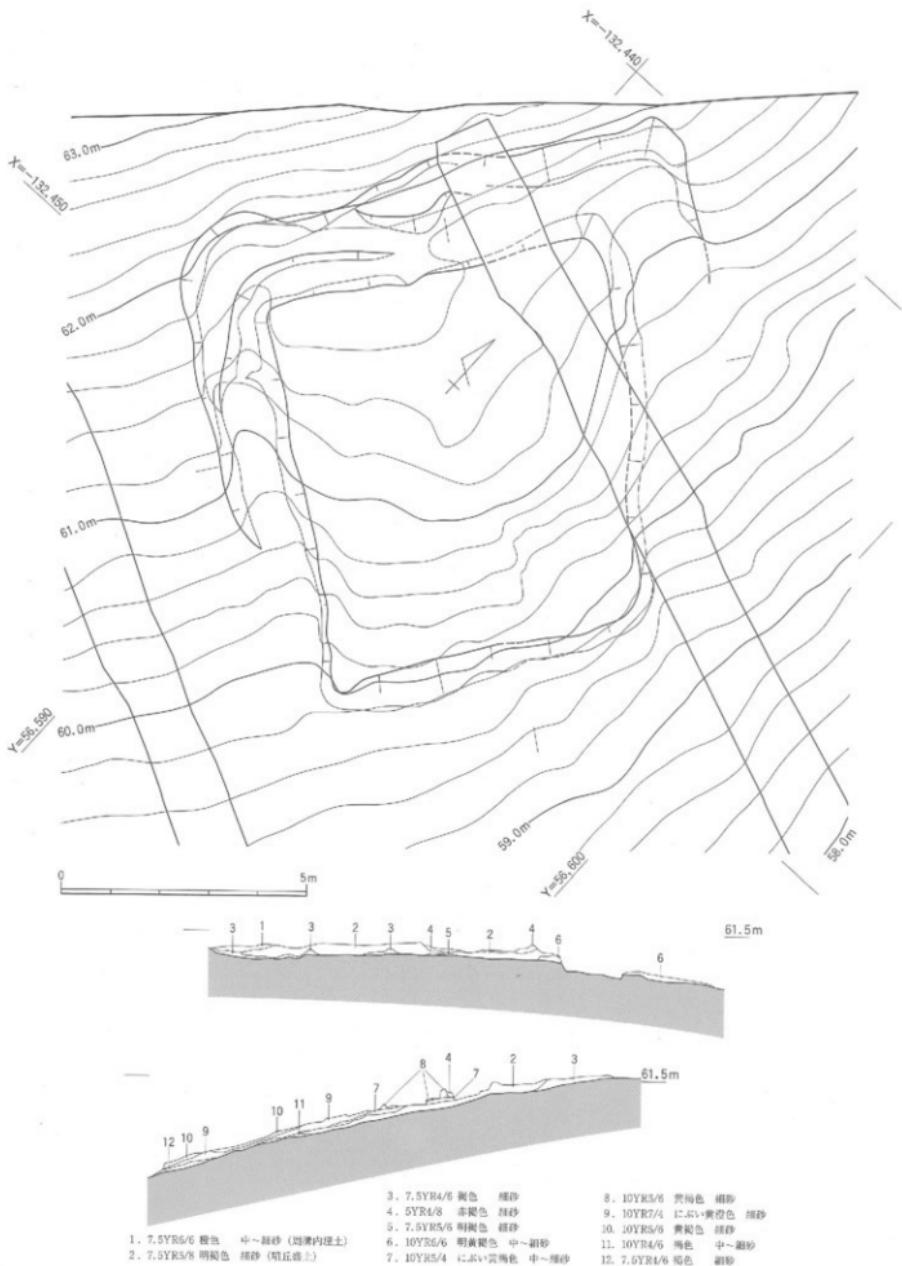


金属製品・石製品

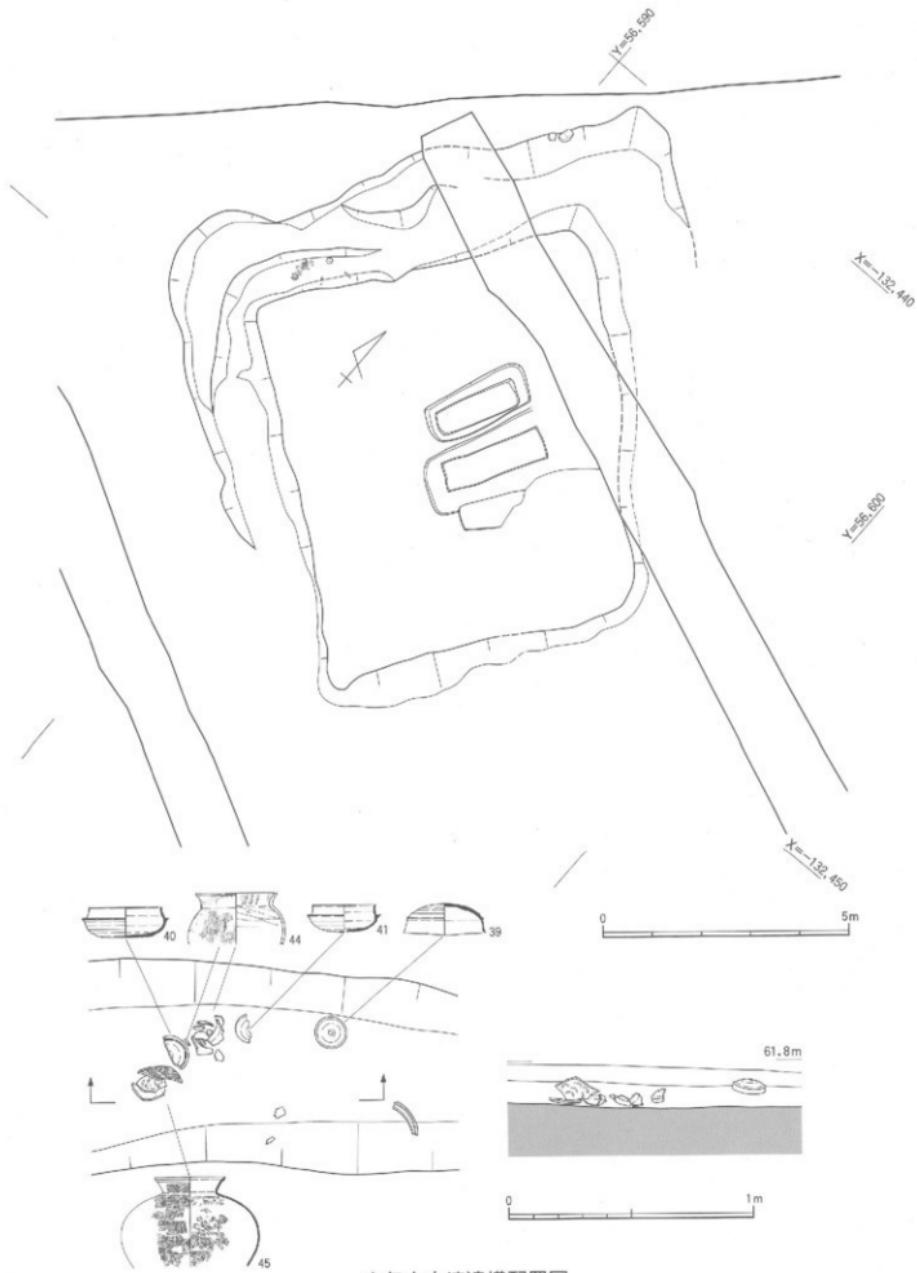
# 大年山古墳



大年山古墳調査前地形測量図

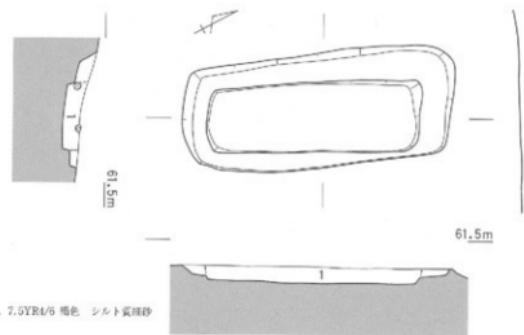


大年山古墳地形測量図

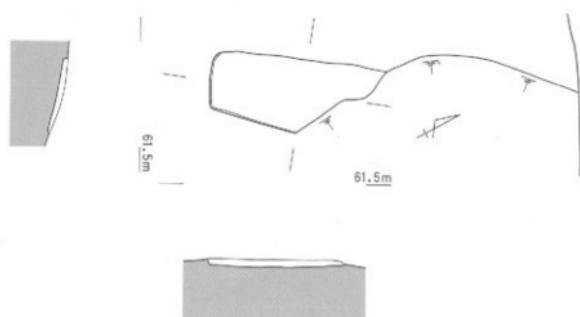


図版19 大年山古墳

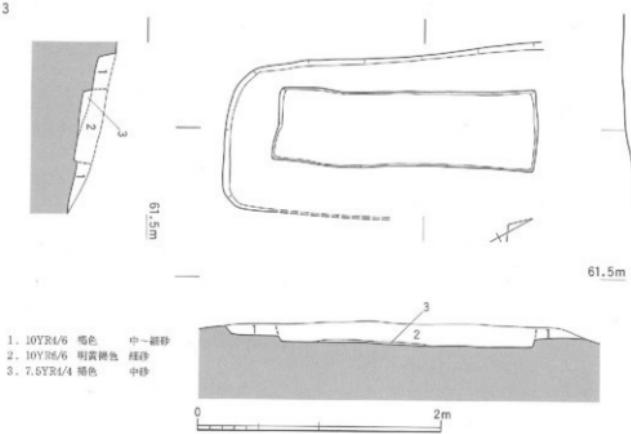
主体部1



主体部2



主体部3



大年山古墳主体部1・2・3 断面図



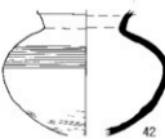
39



40



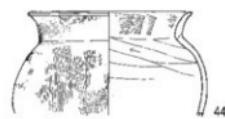
41



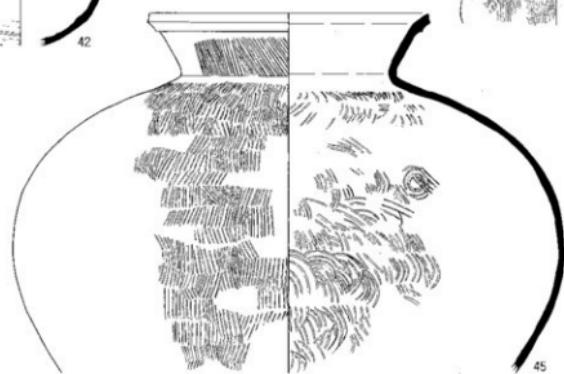
42



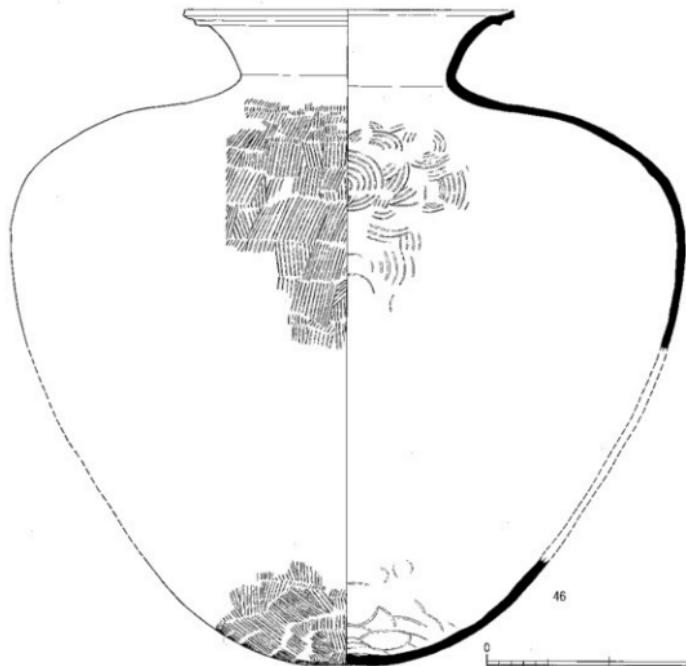
43



44



45



0 20cm

古墳出土遺物

# 写 真 図 版



大年山遺跡・大年山古墳遠景(北東から)

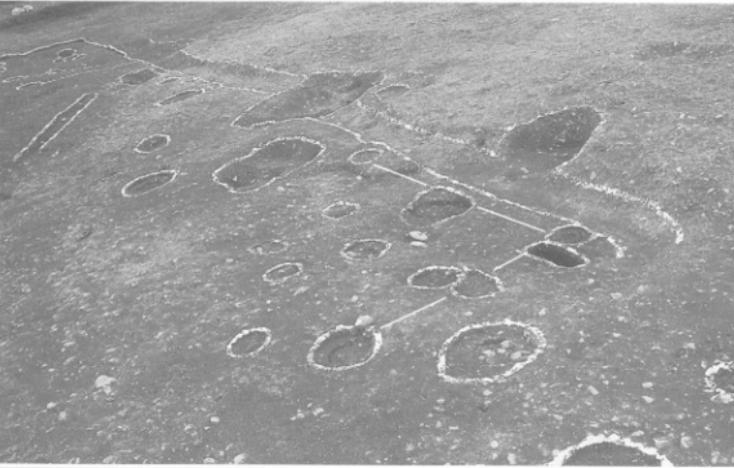


大年山遺跡・大年山古墳遠景(南東から)



大年山遺跡全景(垂直写真)

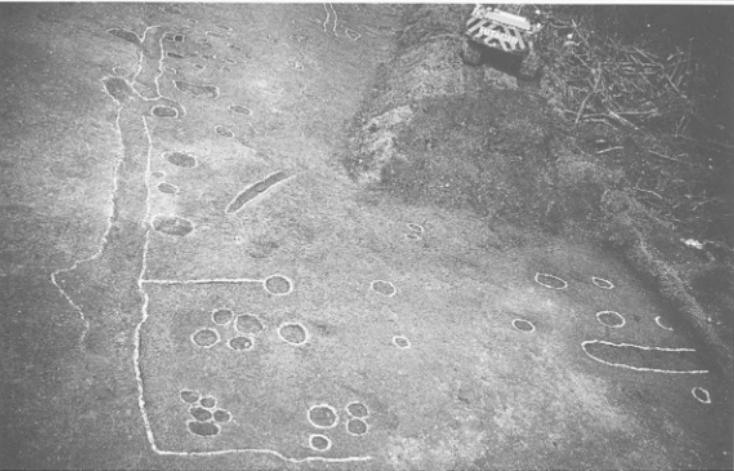




SB03(東から)



掘立柱建物群(西から)



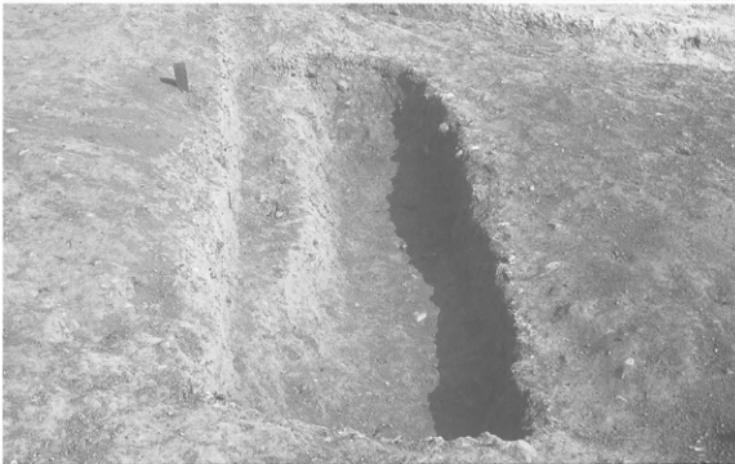
掘立柱建物群(西から)



SX01検出状況(東から)



SX01金属製品出土状況  
(東から)



SX01完掘状況(南から)

写真図版 6



SX02検出状況(東から)



SX02土層断面(南東から)



SX02完掘状況(東から)

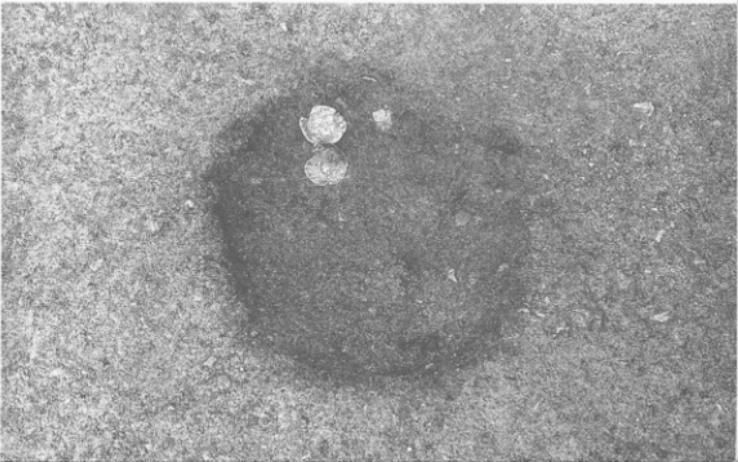
SK03検出状況(南東から)



SK03土層断面(東から)



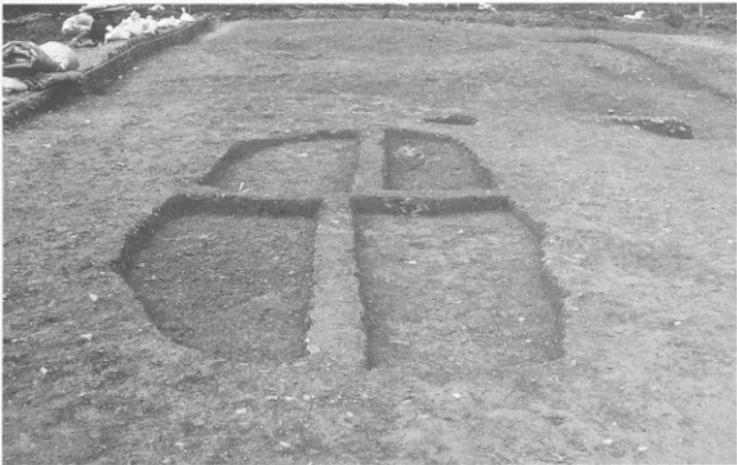
SK03遺物出土状況  
(南東から)



写真図版 8



SX03(南東から)



SX04(南東から)



段状遺構(南西から)



1



2

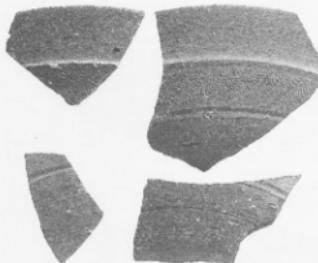
8



3



9



4

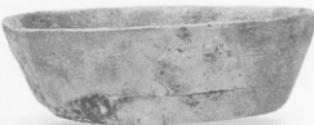


7



5

10



6

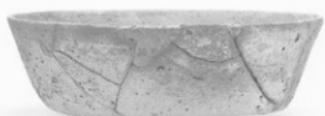
出土遺物



13



22



14



24



15



30



16



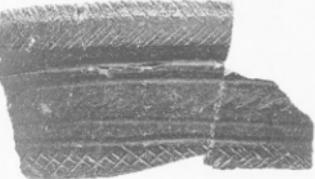
31



17



19



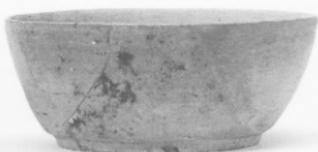
32



21



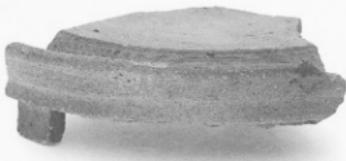
29



36



37

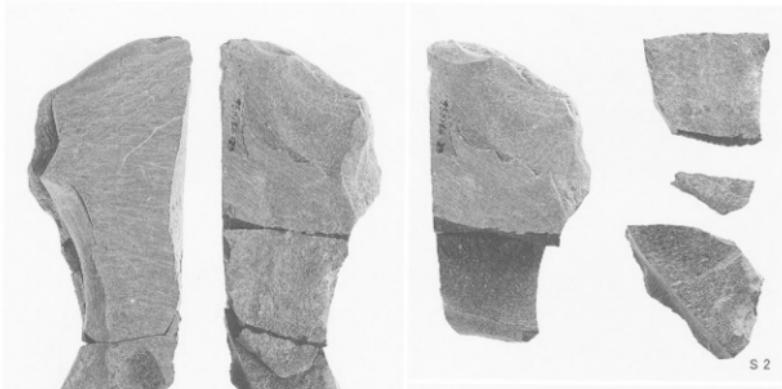


35



38

出土遺物



S 2

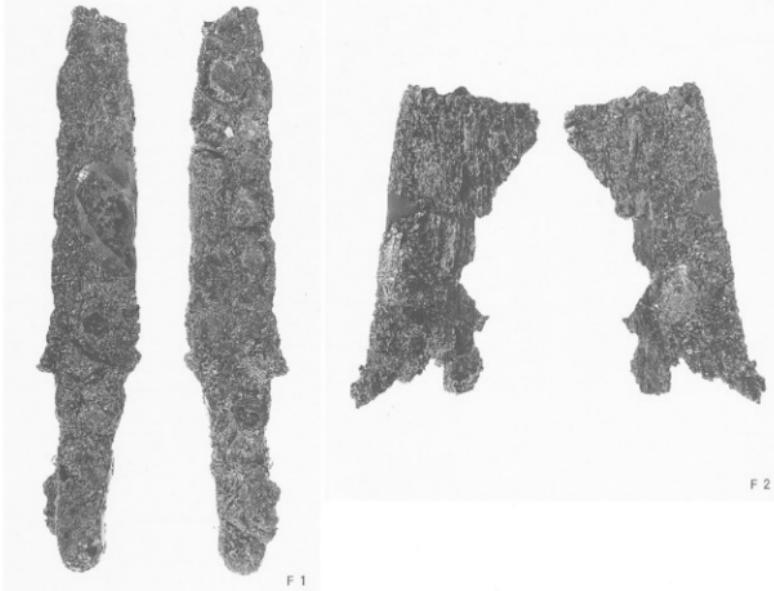


S 1



S 3

出土遺物(石製品)



F 1

F 2

出土遺物(金属製品)



大年山古墳検出状況(南東から)



大年山古墳主体部検出状況(北東から)



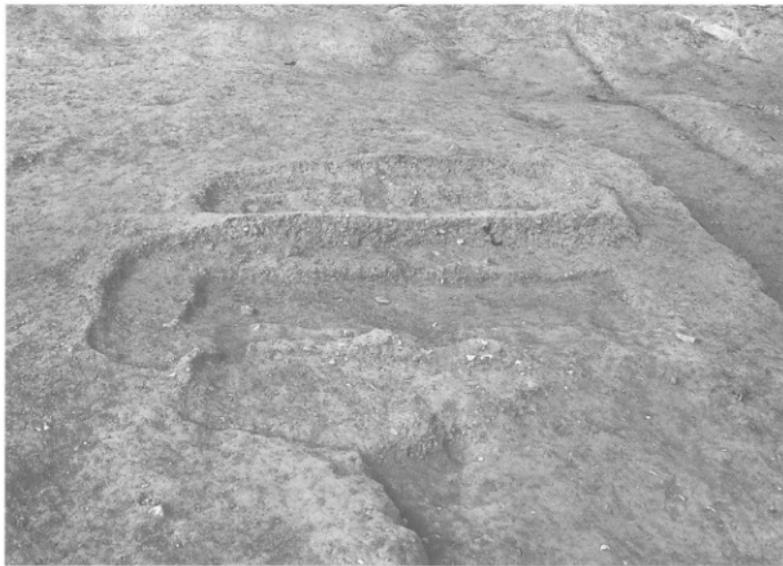
主体部検出状況(南東から)



主体部土層断面(南から)



主体部完掘状況(南東から)



主体部完掘状況(南東から)



主体部完掘状況(南西から)



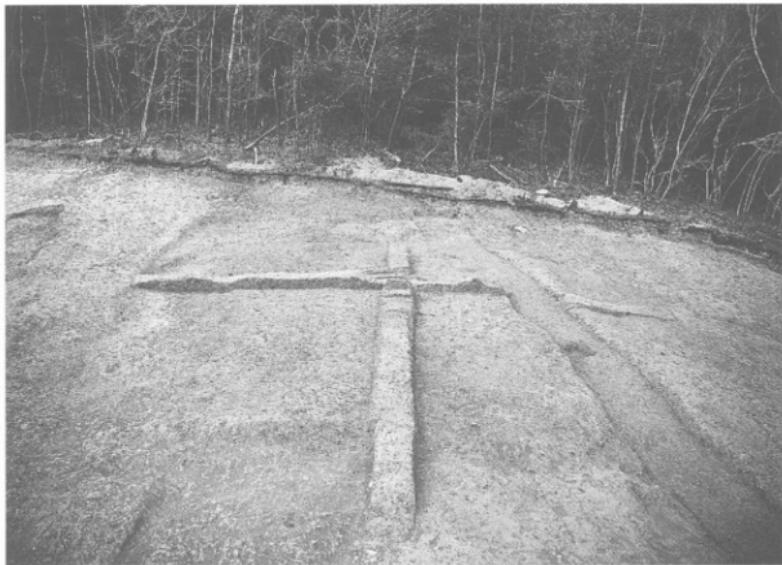
北側周溝内土器(北西から)



北側周溝内土器(南東から)



北側周溝内土器(東から)



墳丘断ち割り畦(南東から)

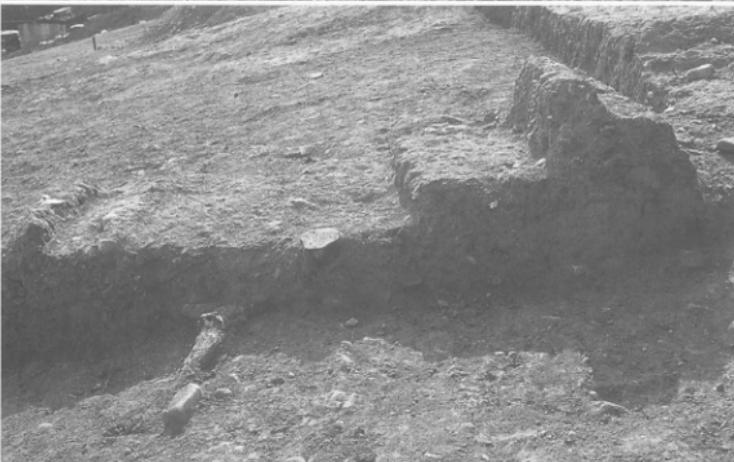


墳丘断ち割り畦(南西から)

写真図版19



墳丘断ち割り畦(北東から)



墳丘断ち割り畦(北東から)



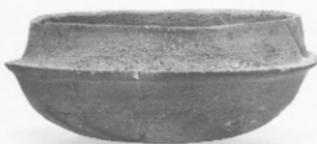
墳丘断ち割り畦(北東から)



39



42



40



41



44



46

# 報告書抄録

ふりがな	おおとしやまいせき・おおとしやまこふん							
書名	大年山遺跡・大年山古墳							
副書名	山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
卷次	XXXIX							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第237号							
編著者名	岡本 一秀、森内 秀造、仁尾 一人							
編集機関	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号				TEL 078-531-7011			
発行年月日	西暦2002(平成14)年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	調査番号					
大年山遺跡	兵庫県 三木市 別所町 和田	28201	950296	34度 48分 14秒	134度 57分 0.6秒	1995.11.24 ~1996.01.25	900m <sup>2</sup>	山陽自動車道建設事業に伴う調査
大年山古墳	兵庫県 三木市 別所町 和田	28201	950297	34度 48分 15秒	134度 57分 0.6秒	1995.11.24 ~1996.01.25	67m <sup>2</sup>	山陽自動車道建設事業に伴う調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大年山遺跡	墓 墓 墳 落	古墳時代 奈良時代	土 坑 掘立柱建物跡・土坑 溝・段状遺構	須恵器・鐵器 須恵器・土師器	円面鏡片が出土			
大年山古墳	古 墳	古墳時代	方 墳	須 惠 器				

---

---

兵庫県文化財調査報告 第237冊

兵庫県三木市所在

## 大年山遺跡・大年山古墳

—山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XXXIX —

平成14年3月31日発行

編 集 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号

TEL 078-531-7011

発 行 兵 庫 県 教 育 委 員 会

〒650-0011 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 水 山 産 業 株 式 会 社

〒653-0012 神戸市長田区二番町3丁目4番1号

---



この骨子は、古紙100%の  
再生紙を使用しています。